

## 2. 福祉用具専門相談員の具体的なモニタリング・保守メンテナンス等の提供内容に係る実態調査（アンケート調査）

### 2-1. 調査概要

#### （1）調査の目的

本調査では福祉用具専門相談員が実施しているモニタリング、保守メンテナンス等を通じた具体的なサービス提供内容や他職種との連携状況等について実態を把握し、福祉用具の適時・適切な利用と、利用者の安全を確保する取り組みについて明らかにし、介護保険制度における福祉用具貸与・販売種目の在り方について検討するための基礎資料を収集することを目的に実施した。

#### （2）調査対象

当会の理事会社（福祉用具貸与事業者）11事業者を対象に以下の調査票を配布。

事業所票：福祉用具貸与事業者・11事業者に所属する計78事業所

提供実務票：78事業所に所属する福祉用具専門相談員

#### （3）調査方法

事務局から調査票を福祉用具貸与事業者へ150部程度を郵送（計1,500部）

回答方法は、調査票への記入・郵送による返送、またはWEB回答（回答者が選択）

#### （4）調査期間

令和3年8月10日（火）～令和3年10月9日（土）

※上記調査期間は新型コロナウイルス感染症による感染予防対策に配慮したサービス提供を実施している時期である

#### （5）回収状況

回収状況は以下の通り。

図表 2 回収状況

	発送数	回収数	回収率
事業所票※ <sup>1</sup>	78件	74件	94.9%
提供実務票※ <sup>2</sup>	1,500件	1,483件	98.9%

※1：1事業所あたり1票回答

※2：事業所の利用者数に応じて事業所毎に配布。福祉用具専門相談員によるモニタリング訪問1回あたり1票回答

## (6) 調査項目

主な調査項目は以下の通り。

図表 3 主な調査項目（事業所票）

問	調査項目	
問 1	ご連絡先等について	<ul style="list-style-type: none"><li>法人名、事業所名、事業所所在地</li><li>連絡先</li></ul>
問 2	事業所概要	<ul style="list-style-type: none"><li>法人が運営する福祉用具貸与事業所の総数</li><li>モニタリングの頻度</li></ul>

図表 4 主な調査項目（提供実務票）

問	調査項目	
問 1	回答者ご自身について	<ul style="list-style-type: none"><li>福祉用具専門相談員としての経験年数</li><li>福祉用具専門相談員以外に保有している資格</li></ul>
問 2	利用者情報	<ul style="list-style-type: none"><li>年齢、要介護度、要介護となった原因疾患</li><li>認知症の日常生活自立度</li><li>理解力、意思の伝達</li><li>移乗、座位保持、屋内歩行、屋外歩行、移動</li><li>聴覚、視力</li><li>世帯構成、住まい</li><li>他サービスの利用</li><li>利用中の福祉用具貸与品</li></ul>
問 3	訪問前に実施した内容	<ul style="list-style-type: none"><li>実施内容、所用時間</li></ul>
問 4	訪問時に実施した内容	<ul style="list-style-type: none"><li>訪問・滞在に要した時間、対応者</li><li>モニタリング訪問時に全種目に共通して確認した内容（実施方法、変化の有無）</li><li>用具別にモニタリングを通して適合を確認した内容</li><li>販売対象商品への対応</li></ul>
問 5	訪問後に実施した内容	<ul style="list-style-type: none"><li>事業所内で実施した内容（モニタリング・メンテナンス・情報共有に関して、実施の有無と所要時間）</li></ul>
問 6	他職種との連携状況	<ul style="list-style-type: none"><li>介護支援専門員等への報告・情報共有の実施状況等について</li></ul>
問 7	その他	<ul style="list-style-type: none"><li>福祉用具専門相談員として専門性を発揮できたと思うポイントや、福祉用具貸与サービスを利用していることによる効果</li></ul>

## 2-2. 調査結果

### (1) 事業所の概要

本調査に回答した事業所の概要は以下の通り。

図表 5 回答事業所の概要

事業者	法人全体の 事業所数	本調査に回答した 事業所数	定期モニタリング※ の頻度
A 事業者	92 事業所	8 事業所	6 か月に 1 回
B 事業者	65 事業所	22 事業所	6 か月に 1 回
C 事業者	62 事業所	8 事業所	6 か月に 1 回
D 事業者	16 事業所	16 事業所	6 か月に 1 回
E 事業者	12 事業所	8 事業所	6 か月に 1 回
F 事業者	9 事業所	9 事業所	6 か月に 1 回
G 事業者	3 事業所	3 事業所	事業所票未回収
H 事業者	1 事業所	1 事業所	6 か月に 1 回
I 事業者	1 事業所	1 事業所	事業所票未回収
J 事業者	1 事業所	1 事業所	6 か月に 1 回
K 事業者	1 事業所	1 事業所	6 か月に 1 回

※本調査では、各事業所においてケアプランの目標の確認やメンテナンスのために福祉用具専門相談員が定期的実施するモニタリングのことを「定期モニタリング」という（以下、同様）。

## (2) 福祉用具専門相談員（回答者）の概要

### 1) 福祉用具専門相談員としての経験年数

本調査に回答した福祉用具専門相談員の経験年数は、「10年以上」が最も多く51.4%であった。

但し、本調査票は福祉用具専門相談員個々に配布したものではなく、事業所宛てに調査期間中に回答いただきたい調査票の部数を一括で送付しており、1人の福祉用具専門相談員が複数の調査票に回答している。よって、本集計結果は回答者の実人数ではなく延べ人数である。

図表 6 福祉用具専門相談員としての経験年数

調査数	3年未満	3年～10年未満	10年以上	無回答	平均（年）
1483 100%	244 16.5%	474 31.9%	763 51.4%	2 0.1%	10.2

### 2) 福祉用具専門相談員以外に保有している資格

福祉用具専門相談員以外に保有している資格は、「介護職員初任者研修修了者」が12.5%という結果であった。

図表 7 福祉用具専門相談員以外に保有している資格【複数回答】

調査数	保健師	看護師	准看護師	理学療法士	作業療法士	社会福祉士	介護福祉士	義肢装具士	介護支援専門員	介護職員初任者研修修了者	なし	無回答
1483 100%	-	-	-	18 1.2%	3 0.2%	103 6.9%	113 7.6%	-	136 9.2%	185 12.5%	427 28.8%	589 39.7%

### (3) 利用者の概要

#### 1) 年齢

利用者の年齢は「80歳代」が最も多く45.7%であり、平均は83.4歳であった。

図表 8 年齢

調査数	59歳以下	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答	平均(歳)
1483 100%	23 1.6%	72 4.9%	313 21.1%	677 45.7%	374 25.2%	25 1.7%	83.4

#### 2) 要介護度

利用者の要介護度は「要介護2」が最も多く22.3%であった。

以降の設問において、利用者の状態像別のモニタリング時の実施内容等を確認するため、軽度・中等度・重度の3区分及び、要支援・軽度・中度・重度の4区分でのクロス集計を実施した。

図表 9 要介護度

調査数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	変更・申請中	無回答
1483 100%	141 9.5%	284 19.2%	290 19.6%	330 22.3%	188 12.7%	135 9.1%	86 5.8%	11 0.7%	18 1.2%

図表 10 要介護度(3区分)

調査数	(軽度 要支援1・2、 要介護1)	(中等度 要介護2・3)	(重度 要介護4・5)
1454 100%	715 49.2%	518 35.6%	221 15.2%

図表 11 要介護度(4区分)

調査数	要支援1・2	(軽度 要介護1・2)	(中度 要介護3)	(重度 要介護4・5)
1454 100%	425 29.2%	620 42.6%	188 12.9%	221 15.2%

### 3) 要介護となった原因疾患

要介護となった原因疾患は、「高齢による衰弱」が最も多く 33.9%であった。

図表 12 要介護となった原因疾患【複数回答】

調査数	高齢による衰弱	関節疾患	骨折・転倒	認知症	脳血管疾患	心臓病	糖尿病	がん	その他	無回答
1483	502	269	385	120	265	74	65	55	345	35
100%	33.9%	18.1%	26%	8.1%	17.9%	5%	4.4%	3.7%	23.3%	2.4%

### 4) 認知症の日常生活自立度

認知症の日常生活自立度は「自立」が最も多く 45.0%であった。

以降の設問において、認知症の自立度別にモニタリング時の実施内容等を確認するため自立、Ⅰ、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・Mの4区分でのクロス集計を実施した。

図表 13 認知症の日常生活自立度

調査数	自立	Ⅰ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	無回答
1483	667	249	113	82	44	14	32	3	252	27
100%	45%	16.8%	7.6%	5.5%	3%	0.9%	2.2%	0.2%	17%	1.8%

図表 14 認知症の日常生活自立度（4区分）

調査数	自立	Ⅰ	Ⅱa・Ⅱb	ⅣⅢa・Ⅲb・M
1204	667	249	195	93
100%	55.4%	20.7%	16.2%	7.7%

### 5) 理解力・意志の伝達

理解力は「説明が理解できる」が最も多く 67.5%であり、意志の伝達は「意志を他者に伝達できる」が最も多く 77.7%であった。

図表 15 理解力

調査数	説明が理解できる	がとどき理解に支障	いほとんど理解できない	理解できない	無回答
1483	1001	387	65	18	12
100%	67.5%	26.1%	4.4%	1.2%	0.8%

図表 16 意志の伝達

調査数	意思を他者に伝達できる	とどき伝達できる	いほとんど伝達できない	伝達できない	無回答
1483	1152	234	66	18	13
100%	77.7%	15.8%	4.5%	1.2%	0.9%

### 6) 身体状況・ADL

移乗については、「介助されていない」が最も多く 55.8%、座位保持についても「できる」が最も多く 65.2%であった。

歩行については、屋内・屋外いずれも「何かにつかまればできる」が半数以上という結果であり、移動についても「介助されていない」が 42.5%で最も多かった。

聴覚、視覚については、いずれも「普通」が最も多い結果であった。

図表 17 移乗

調査数	介助されていない	見守り等	一部介助	全介助	無回答
1483	828	322	213	102	18
100%	55.8%	21.7%	14.4%	6.9%	1.2%

図表 18 座位保持

調査数	できる	自分の手で支えれば	支えてもらえれば	できない	無回答
1483	967	363	95	44	14
100%	65.2%	24.5%	6.4%	3%	0.9%

図表 19 屋内歩行

調査数	つかまらないでできる	何かにつかまれば	一部介助	できない	無回答
1483	250	924	123	174	12
100%	16.9%	62.3%	8.3%	11.7%	0.8%

図表 20 屋外歩行

調査数	つかまらないでできる	何かにつかまれば	一部介助	できない	無回答
1483	115	805	271	278	14
100%	7.8%	54.3%	18.3%	18.7%	0.9%

図表 21 移動

調査数	介助されていない	見守り等	一部介助	全介助	無回答
1483	630	402	279	140	32
100%	42.5%	27.1%	18.8%	9.4%	2.2%

図表 22 聴覚

調査数	普通	普通の声がかえりこえる	かなり大きき取れる	何とか聞き取れる	ほとんど聞こえない	聞こえていないのか判断不能	無回答
1483	909	342	172	20	26	14	
100%	61.3%	23.1%	11.6%	1.3%	1.8%	0.9%	

図表 23 視覚

調査数	普通（日常生活に支障がない）	約1m離れた視力確認の図が見える	目の前に置いた視力確認の図が見える	ほとんど見えない	見えていないのか判断不能	無回答
1483	1114	211	92	22	32	12
100%	75.1%	14.2%	6.2%	1.5%	2.2%	0.8%

7) 住まい・世帯構成

利用者の住まいは、「一軒家」が71.8%と最も多かった。

世帯構成については、「子と同居」が最も多く36.0%であり、次いで、「配偶者との2人暮らし」28.7%、「独居」27.8%という結果であった。

図表 24 住まい

調査数	一軒家	集合住宅	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	無回答
1483	1065	332	33	33	20
100%	71.8%	22.4%	2.2%	2.2%	1.3%

図表 25 世帯構成

調査数	独居	配偶者との2人暮らし	子と同居	その他	無回答
1483	412	425	534	98	14
100%	27.8%	28.7%	36.0%	6.6%	0.9%

## 8) 他サービスの利用状況

福祉用具貸与以外に利用している他サービスについて、多い順に「通所介護」(40.7%)、「訪問介護」(28.6%)、「通所リハビリ」(21.4%) という結果であった。利用者ごとに居宅介護支援を除く他サービスの利用数を確認したところ、福祉用具貸与以外に「1種」が最も多く49.4%であった。「0種」(福祉用具貸与のみ)の利用者は、14.9%だった。最大は「6種」であった。

図表 26 他サービスの利用【複数回答】

調査数	訪問介護	訪問看護	訪問リハビリ	訪問入浴	通所介護	通所リハビリ	居宅療養管理指導	短期入所	小規模多機能	看護多機能	型定期巡回／随時対応	無回答
1483	424	256	187	52	603	318	34	95	17	2	12	221
100%	28.6%	17.3%	12.6%	3.5%	40.7%	21.4%	2.3%	6.4%	1.1%	0.1%	0.8%	14.9%

図表 27 他サービスの利用数

調査数	(※種)	1種	2種	3種	4種	5種	6種
1483	221	732	373	118	29	8	2
100%	14.9%	49.4%	25.2%	8%	2%	0.5%	0.1%

※「0種」は、福祉用具貸与以外に他サービス利用なし

## 9) 利用中の福祉用具貸与品

利用中の福祉用具貸与品は、多い順に「歩行器」(39.9%)、「手すり(寝室・居室・廊下)」(38.3%)、「特殊寝台(付属品含)」(35.3%)であった。貸与品の種目数は「1種目」が37.1%で最も多く、次いで「2種目」が30.1%であり、最大は「7種目」であった。

図表 28 利用中の福祉用具貸与品【複数回答】

調査数	車いす(付属品含)	含特殊寝台(付属品)	床ずれ防止用具	体位変換器	かまち(玄関外)	手すり(寝室・居室・廊下)	手すり(トイレ)	スロープ	歩行器	歩行補助つえ	機器認知症老人徘徊感知	移動用リフト	自動排泄処理装置
1483	453	524	95	20	384	568	214	138	591	166	13	39	-
100%	30.5%	35.3%	6.4%	1.3%	25.9%	38.3%	14.4%	9.3%	39.9%	11.2%	0.9%	2.6%	-

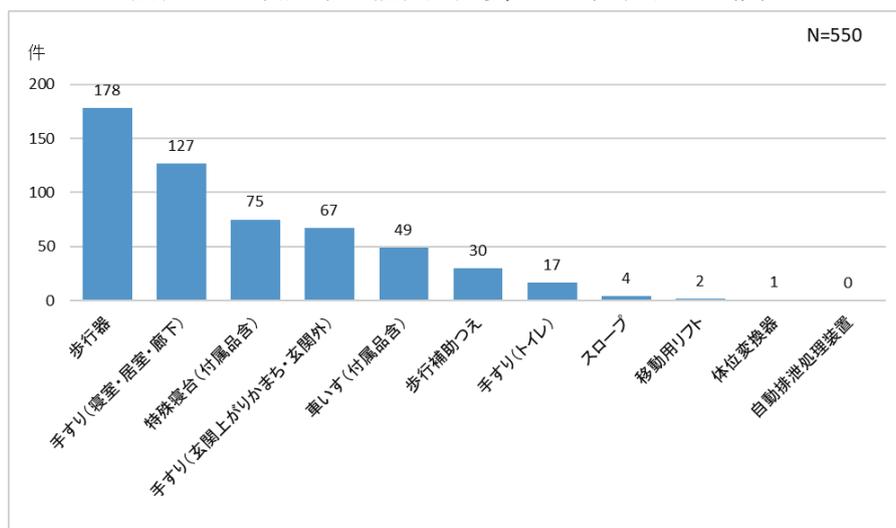
図表 29 利用中の福祉用具貸与品(種目数)

調査数	1種目	2種目	3種目	4種目	5種目	6種目	7種目
1483	550	447	274	142	51	17	2
100%	37.1%	30.1%	18.5%	9.6%	3.4%	1.1%	0.1%

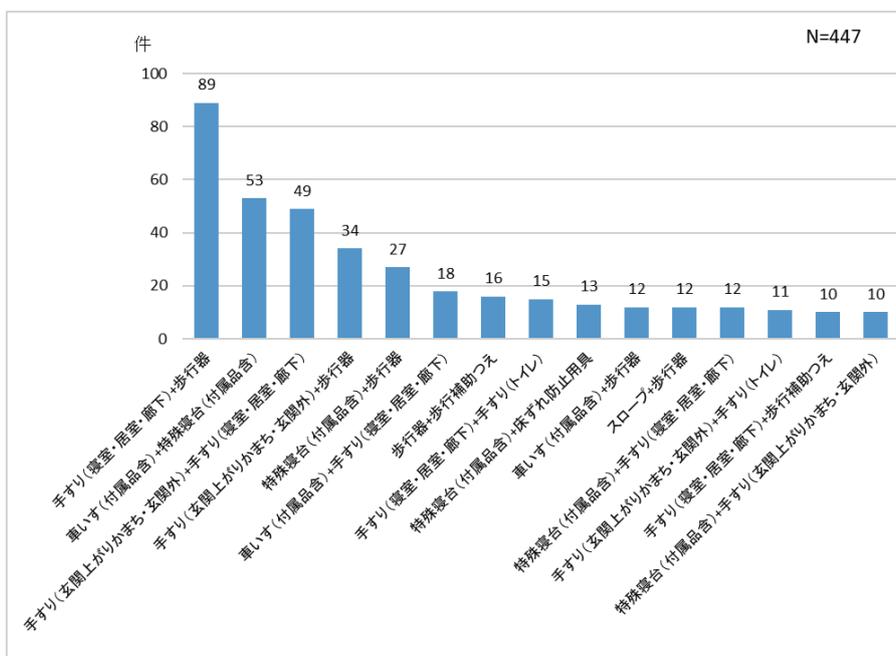
種目数別の貸与品について確認したところ、1種目では「歩行器」が最も多く178件、次いで「手すり（寝室・居室・廊下）」127件、「特殊寝台（付属品含）」75件という結果であり、全体の傾向（順番）と同様だった。

2種目の組合せでみると、「手すり（寝室・居室・廊下）」と歩行器」が最も多く89件、次いで「車いす（付属品含）」と特殊寝台（付属品含）」53件、「手すり（玄関上がりがまち・玄関外）」と手すり（寝室・居室・廊下）」49件という結果であった。

図表 30 利用中の福祉用具貸与品（1種目の内訳）



図表 31 利用中の福祉用具貸与品（2種目の内訳・上位15位までを抜粋）



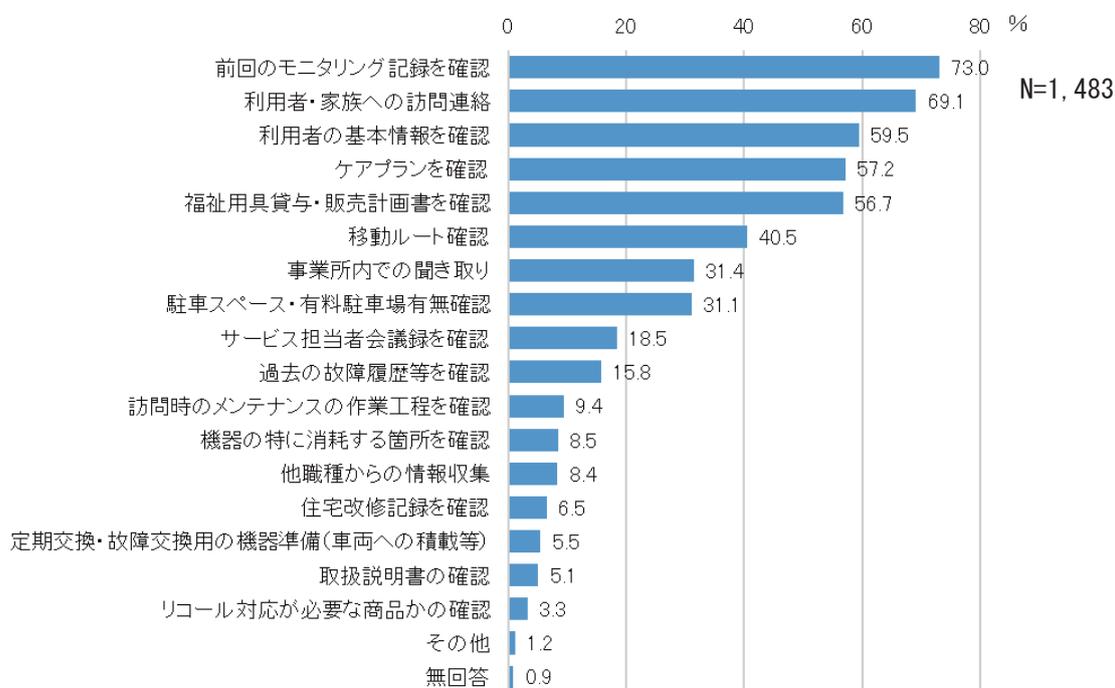
#### (4) モニタリング訪問前に実施した内容

##### 1) 訪問前に実施した内容

訪問前に実施した内容は、多い順に「前回のモニタリング記録を確認」が73.0%、「利用者・家族への訪問連絡」69.1%、「利用者の基本情報を確認」59.5%であった。「その他」の自由記述では「新たな要望・不都合等の確認」「私物一本枚の先ゴム販売」という回答があった。

初回モニタリングの場合には、「利用者・家族への訪問連絡」が72.7%で最も多く、次いで「利用者の基本情報を確認」が63.5%、「福祉用具貸与・販売計画書を確認」が59.1%であった。

図表 32 (全体) 訪問前に実施した内容【複数回答】



図表 33 訪問前に実施した内容【複数回答】

	調査数	ケアプランを確認	前回のモニタリング記録を確認	サービス担当者会議録を確認	福祉用具貸与・販売計画書を確認	利用者の基本情報を確認	住宅改修記録を確認	他職種からの情報収集	事業所内での聞き取り	過去の故障履歴等を確認	機器の特に消耗する箇所を確認	訪問時のメンテナンスの作業工程を確認	取扱説明書の確認	リコール対応が必要な商品かの確認	利用者・家族への訪問連絡	移動ルート確認	無駐車スペース・有料駐車場有	定期交換・故障交換用の機器準備(車両への積載等)	その他	無回答
全体	1483	848 57.2%	1082 73.0%	275 18.5%	841 56.7%	883 59.5%	96 6.5%	125 8.4%	465 31.4%	235 15.8%	126 8.5%	140 9.4%	75 5.1%	49 3.3%	1025 69.1%	600 40.5%	461 31.1%	81 5.5%	18 1.2%	13 0.9%
初回モニタリングを除く	1036	588 56.8%	828 79.9%	192 18.5%	577 55.7%	599 57.8%	66 6.4%	84 8.1%	317 30.6%	177 17.1%	91 8.8%	94 9.1%	50 4.8%	34 3.3%	700 67.6%	414 40.0%	312 30.1%	62 6.0%	13 1.3%	8 0.8%
初回モニタリング(※)	447	260 58.2%	254 56.8%	83 18.6%	264 59.1%	284 63.5%	30 6.7%	41 9.2%	148 33.1%	58 13.0%	35 7.8%	46 10.3%	25 5.6%	15 3.4%	325 72.7%	186 41.6%	149 33.3%	19 4.3%	5 1.1%	5 1.1%

※複数種目の貸与を受けている利用者については、1種目でも「初回モニタリング」の選択があった利用者を集計対象としている。

## 2) 所要時間

訪問前に実施した内容の1件あたりの所要時間は「10～20分未満」が最も多く55.2%であり、平均は16.0分であった。初回モニタリングの場合も訪問前に実施した内容の1件あたりの所要時間は変わらなかった。

図表 34 訪問前に実施した内容（1件あたりの所要時間）

	調査数	10分未満	10～20分未満	20～30分未満	30～40分未満	40～50分未満	50～60分未満	60分以上	無回答	平均	最小値	最大値
全体	1483	185	818	226	169	48	10	13	14	16.0	1.0	120.0
	100.0%	12.5%	55.2%	15.2%	11.4%	3.2%	0.7%	0.9%	0.9%			
初回モニタリングを除く	1036	136	566	151	123	33	8	10	9	16.0	1.0	120.0
	100.0%	13.1%	54.6%	14.6%	11.9%	3.2%	0.8%	1.0%	0.9%			
初回モニタリング(※)	447	49	252	75	46	15	2	3	5	15.9	2.0	60.0
	100.0%	11.0%	56.4%	16.8%	10.3%	3.4%	0.4%	0.7%	1.1%			

※複数種目の貸与を受けている利用者については、1種目でも「初回モニタリング」の選択があった利用者を集計対象としている。

## (5) 訪問時に実施した内容

### 1) 滞在時間

モニタリング訪問時の滞在時間は、全体で見ると「30～40分未満」が最も多く、30.1%であった。利用者へ貸与している種目数別でも2種目以上の場合は全体と同じ傾向にあったが、「1種目」の場合は「10～20分未満」の回答が最も多かった。

但し、本調査は新型コロナウイルス感染症による対応が求められている時期であったため、種目数によらず通常時よりも短時間での対応になっている可能性が考えられる。

図表 35 滞在時間（貸与種目数別）

		調査数	10分未満	10～20分未満	20～30分未満	30～40分未満	40～50分未満	50～60分未満	60分以上	無回答	平均(分)	最小値(分)	最大値(分)
全体		1,483	8	300	391	447	201	48	75	13	28	5	120
		100%	0.5%	20.2%	26.4%	30.1%	13.6%	3.2%	5.1%	0.9%			
貸与種目数別	1種目	550	6	196	141	139	46	6	9	7	23	5	70
		100	1.1%	35.6%	25.6%	25.3%	8.4%	1.1%	1.6%	1.3%			
	2種目	447	2	68	137	141	56	18	22	3	29	5	120
		100	0.4%	15.2%	30.6%	31.5%	12.5%	4.0%	4.9%	0.7%			
3種目	274	0	24	67	105	47	11	19	1	31	10	90	
	100	0.0%	8.8%	24.5%	38.3%	17.2%	4.0%	6.9%	0.4%				
4種目以上	212	0	12	46	62	52	13	25	2	35	10	120	
	100	0.0%	5.7%	21.7%	29.2%	24.5%	6.1%	11.8%	0.9%				

## 2) 対応者

訪問時の対応者について、全体でみると「利用者本人」が最も多く 82.9%であった。認知機能別に確認したところ、「自立」、「I」の場合には全体同様「利用者本人」が最も多いが、「IIa・IIb」、「IIIa・IIIb・IV・M」の場合は「介助者（ご家族）」の回答が最も多い結果であった。

図表 36 対応者（認知機能別）【複数回答】

	調査数	利用者本人	介助者（ご家族等）	介護支援専門員	初任者研（介護福祉士・研修了者）	看護師	（リハビリ・PT・OT・ST）職	医師	その他	無回答
全体	1,483	1,230 82.9%	900 60.7%	125 8.4%	44 3.0%	10 0.7%	23 1.6%	-	19 1.3%	13 0.9%
認知機能別	自立	667 92.2%	615 47.7%	318 7.8%	52 1.2%	8 0.6%	4 0.9%	-	5 0.7%	4 0.6%
	I	249 88.8%	221 64.7%	161 10.4%	26 3.6%	9 0.8%	2 1.2%	-	3 1.2%	1 0.4%
	IIa・IIb	195 77.9%	152 82.1%	160 10.8%	21 3.6%	7 1.0%	2 3.6%	-	1 0.5%	0 0.0%
	IIIa・IIIb・IV・M	93 47.3%	44 88.2%	82 3.2%	3 5.4%	5 2.2%	2 3.2%	-	4 4.3%	0 0.0%

## 3) 全種目に共通して確認した内容

確認項目について、確認の方法・変化の有無への回答について、以下の定義に基づき回答を得た。

### 【実施方法】

聴取：訪問時に福祉用具専門相談員から問いかけ、聞き取りを行い状況等を把握すること  
 観察：訪問時に、あえて声掛けや使用の促しを行わず、利用者や家族が福祉用具を使っている様子や生活を通して状況等を見立てること

動作確認：貸与している用具の使用を促し、操作・動作状況を確認すること

### 【変化の有無】

前回のモニタリング時の状況等と比較または、福祉用具貸与サービスの利用開始後、初回のモニタリングの場合には、貸与サービス計画書作成時のアセスメント結果と比較する。

モニタリング訪問時に貸与種目に関らず、全種目に共通して確認した内容を利用者の要介護度別に確認したところ、「軽度」及び「中等度」の利用者については、「聴取」での確認を実施しつつ、「座位」や「屋内歩行」等については「観察・動作確認」も合わせて実施していた。

図表 37 全種目に共通して確認した内容（要介護度別）【複数回答】

	軽度(要支援1・2、要介護1)				中等度(要介護2・3)				重度(要介護4・5)			
	調査数	聴取	観察・動作確認	無回答	調査数	聴取	観察・動作確認	無回答	調査数	聴取	観察・動作確認	無回答
ア 利用者・家族の意向・要望	715	658 92.0%	62 8.7%	34 4.8%	518	477 92.1%	54 10.4%	21 4.1%	221	212 95.9%	21 9.5%	3 1.4%
イ 寝返り	715	489 68.4%	211 29.5%	39 5.5%	518	353 68.1%	172 33.2%	20 3.9%	221	163 73.8%	81 36.7%	1 0.5%
ウ 起き上がり	715	487 68.1%	226 31.6%	38 5.3%	518	342 66.0%	194 37.5%	19 3.7%	221	156 70.6%	85 38.5%	1 0.5%
エ 立ち上がり	715	410 57.3%	372 52.0%	38 5.3%	518	293 56.6%	272 52.5%	20 3.9%	221	149 67.4%	94 42.5%	1 0.5%
オ 移乗	715	405 56.6%	325 45.5%	40 5.6%	518	301 58.1%	253 48.8%	19 3.7%	221	150 67.9%	87 39.4%	1 0.5%
カ 座位	715	317 44.3%	446 62.4%	37 5.2%	518	228 44.0%	337 65.1%	19 3.7%	221	128 57.9%	116 52.5%	2 0.9%
キ 屋内歩行	715	367 51.3%	460 64.3%	34 4.8%	518	289 55.8%	287 55.4%	20 3.9%	221	148 67.0%	85 38.5%	2 0.9%
ク 屋外歩行	715	526 73.6%	221 30.9%	33 4.6%	518	399 77.0%	120 23.2%	20 3.9%	221	168 76.0%	55 24.9%	2 0.9%
ケ 移動	715	418 58.5%	369 51.6%	35 4.9%	518	316 61.0%	239 46.1%	21 4.1%	221	149 67.4%	90 40.7%	2 0.9%
コ 排泄	715	546 76.4%	145 20.3%	38 5.3%	518	413 79.7%	87 16.8%	25 4.8%	221	172 77.8%	52 23.5%	3 1.4%
サ 入浴	715	552 77.2%	137 19.2%	38 5.3%	518	405 78.2%	90 17.4%	26 5.0%	221	170 76.9%	51 23.1%	4 1.8%
シ 食事	715	544 76.1%	144 20.1%	39 5.5%	518	402 77.6%	94 18.1%	28 5.4%	221	177 80.1%	45 20.4%	3 1.4%
ス 更衣	715	511 71.5%	173 24.2%	40 5.6%	518	384 74.1%	109 21.0%	27 5.2%	221	163 73.8%	57 25.8%	4 1.8%
セ 疾病	715	523 73.1%	173 24.2%	40 5.6%	518	379 73.2%	116 22.4%	30 5.8%	221	163 73.8%	57 25.8%	5 2.3%
ソ 麻痺・拘縮・筋力低下・可動域制限	715	482 67.4%	234 32.7%	40 5.6%	518	350 67.6%	173 33.4%	28 5.4%	221	160 72.4%	72 32.6%	4 1.8%
タ 認知症の日常生活自立度	715	431 60.3%	276 38.6%	39 5.5%	518	311 60.0%	196 37.8%	28 5.4%	221	141 63.8%	83 37.6%	6 2.7%
チ 介護環境(主介護者・家族の状況等)	715	540 75.5%	170 23.8%	38 5.3%	518	400 77.2%	123 23.7%	25 4.8%	221	172 77.8%	64 29.0%	4 1.8%
ツ 他サービス利用状況	715	569 79.6%	115 16.1%	38 5.3%	518	416 80.3%	89 17.2%	24 4.6%	221	175 79.2%	47 21.3%	5 2.3%
テ 介助負担の状況	715	521 72.9%	176 24.6%	38 5.3%	518	402 77.6%	112 21.6%	24 4.6%	221	190 86.0%	46 20.8%	3 1.4%

また、確認した結果、約6割～7割で変化「無」とした一方、約3割の利用者では、前回の確認結果から変化「有」となっていることがわかった。

図表 38 全種目に共通して確認した結果「変化の有無」(要介護度別)【複数回答】

	軽度(要支援1・2、要介護1)				中等度(要介護2・3)				重度(要介護4・5)			
	調査数	有	無	無回答	調査数	有	無	無回答	調査数	有	無	無回答
変化の有無(全体) ※上記ア～テのうち、一つでも「有」があれば「有」として集計	715	162 22.7%	505 70.6%	48 6.7%	518	172 33.2%	315 60.8%	31 6.0%	221	68 30.8%	143 64.7%	10 4.5%

#### 4) 用具別にモニタリングを通して適合を確認した内容

以降、貸与種目別に設問を設け回答を得た。

##### ① 基本情報

種目別に貸与数(台数)を確認したところ、「手すり」「スロープ」については、「2台以上」の回答が他種目と比較して多い結果であった。

また、本調査においては「自動排泄処理装置」の利用者はいなかった。よって、以降の種目別集計表では「自動排泄処理装置」は掲載しない。

図表 39 種目別 貸与数

	調査数	1台	2台以上	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	397 87.6%	45 9.9%	11 2.4%
特殊寝台(付属品含)	524 100%	503 96%	14 2.7%	7 1.3%
床ずれ防止用具	95 100%	90 94.7%	—	5 5.3%
体位変換器	20 100%	20 100%	—	—
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	310 80.7%	62 16.1%	12 3.1%
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	390 68.7%	159 28.0%	19 3.3%
手すり(トイレ)	214 100%	183 85.5%	13 6.1%	18 8.4%
スロープ	138 100%	82 59.4%	53 38.4%	3 2.2%
歩行器	591 100%	522 88.3%	57 9.6%	12 2%
歩行補助つえ	166 100%	145 87.3%	12 7.2%	9 5.4%
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	13 100%	—	—
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	32 82.1%	6 15.4%	1 2.6%
自動排泄処理装置(交換可能部品を含む)	—	—	—	—

種目別の利用年数は、いずれの種目も「1年～3年未満」が最も多いが、「体位変換器」については「6か月～1年未満」が最も多い結果であった。但し、利用者は20人中8人であり調査数は少数である。

図表 40 種目別 利用年数

	調査数	3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年以上	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	41 9.1%	42 9.3%	95 21.0%	149 32.9%	66 14.6%	50 11%	10 2.2%
特殊寝台(付属品含)	524 100%	23 4.4%	37 7.1%	100 19.1%	197 37.6%	75 14.3%	85 16.2%	7 1.3%
床ずれ防止用具	95 100%	12 12.6%	14 14.7%	15 15.8%	33 34.7%	9 9.5%	5 5.3%	7 7.4%
体位変換器	20 100%	3 15.0%	1 5.0%	8 40.0%	5 25.0%	3 15.0%	-	-
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	19 4.9%	30 7.8%	68 17.7%	146 38.0%	66 17.2%	39 10.2%	16 4.2%
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	28 4.9%	57 10.0%	83 14.6%	208 36.6%	91 16.0%	79 13.9%	22 3.9%
手すり(トイレ)	214 100%	9 4.2%	17 7.9%	37 17.3%	69 32.2%	42 19.6%	23 10.7%	17 7.9%
スロープ	138 100%	9 6.5%	10 7.2%	30 21.7%	49 35.5%	21 15.2%	15 10.9%	4 2.9%
歩行器	591 100%	28 4.7%	58 9.8%	142 24.0%	224 37.9%	70 11.8%	54 9.1%	15 2.5%
歩行補助つえ	166 100%	8 4.8%	14 8.4%	29 17.5%	60 36.1%	18 10.8%	26 15.7%	11 6.6%
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	3 23.1%	2 15.4%	2 15.4%	4 30.8%	2 15.4%	-	-
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	1 2.6%	2 5.1%	5 12.8%	19 48.7%	1 2.6%	8 20.5%	3 7.7%

本調査時のモニタリング訪問の実施区分は、「定期モニタリング」が最も多いが、「不定期訪問」の回答もみられる。

「定期モニタリング」について、前回実施日からの期間を算出したところいずれの種目も「6ヵ月～9ヵ月未満」が最も多かった。

「不定期訪問」の場合、「利用者家族からの連絡」「介護支援専門員からの連絡」が多くみられるが、「歩行補助つえ」のみ「利用者本人からの連絡」が最も多かった。また、「不定期訪問」の理由はいずれの種目も「相談／要請等」が最も多く、「故障」「事故」は数件であった。いずれの種目においても最も多かった「相談／要請等」の内容については、今回調査できていないが、状態像の急変や、事故などへの迅速な対応への対策につながる観点から、提供実務の更なる把握が課題として残った。

図表 41 モニタリング訪問の実施区分

	調査数	初回モニタリング	定期モニタリング	不定期訪問	無回答
車いす(付属品含)	453	101	305	36	11
	100%	22.3%	67.3%	7.9%	2.4%
特殊寝台(付属品含)	524	105	368	47	4
	100%	20.0%	70.2%	9.0%	0.8%
床ずれ防止用具	95	30	54	5	6
	100%	31.6%	56.8%	5.3%	6.3%
体位変換器	20	4	12	4	-
	100%	20.0%	60.0%	20.0%	-
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	75	258	37	14
	100%	19.5%	67.2%	9.6%	3.6%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	114	383	52	19
	100%	20.1%	67.4%	9.2%	3.3%
手すり(トイレ)	214	45	136	17	16
	100%	21.0%	63.6%	7.9%	7.5%
スロープ	138	26	92	18	2
	100%	18.8%	66.7%	13.0%	1.4%
歩行器	591	144	395	39	13
	100%	24.4%	66.8%	6.6%	2.2%
歩行補助つえ	166	36	114	7	9
	100%	21.7%	68.7%	4.2%	5.4%
認知症老人徘徊感知機器	13	3	7	3	-
	100%	23.1%	53.8%	23.1%	-
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	4	25	9	1
	100%	10.3%	64.1%	23.1%	2.6%

※初回モニタリングは、現在貸与している用具に対して初めてのモニタリング訪問の場合に選択

図表 42 定期モニタリング・前回実施日からの期間

	調査数	1 カ 月 未 満	1 カ 月 ～ 3 カ 月 未 満	3 カ 月 ～ 6 カ 月 未 満	6 カ 月 ～ 9 カ 月 未 満	9 カ 月 ～ 1 2 カ 月 未 満	1 年 以 上	無 回 答
車いす(付属品含)	305 100.0	- -	31 10.2	54 17.7	173 56.7	22 7.2	13 4.3	12 3.9
特殊寝台(付属品含)	368 100.0	- -	30 8.2	52 14.1	217 59.0	31 8.4	21 5.7	17 4.6
床ずれ防止用具	54 100.0	- -	5 9.3	8 14.8	34 63.0	2 3.7	- -	5 9.3
体位変換器	12 100.0	- -	- -	3 25.0	9 75.0	- -	- -	- -
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	258 100.0	- -	18 7.0	33 12.8	176 68.2	16 6.2	11 4.3	4 1.6
手すり(寝室・居室・廊下)	383 100.0	- -	24 6.3	56 14.6	240 62.7	26 6.8	29 7.6	8 2.1
手すり(トイレ)	136 100.0	- -	8 5.9	23 16.9	86 63.2	10 7.4	5 3.7	4 2.9
スロープ	92 100.0	- -	7 7.6	12 13.0	57 62.0	6 6.5	5 5.4	5 5.4
歩行器	395 100.0	- -	18 4.6	54 13.7	266 67.3	27 6.8	20 5.1	10 2.5
歩行補助つえ	114 100.0	- -	10 8.8	21 18.4	63 55.3	12 10.5	7 6.1	1 0.9
認知症老人徘徊感知機器	7 100.0	- -	- -	2 28.6	5 71.4	- -	- -	- -
移動用リフト(つり具の部分を含む)	25 100.0	- -	1 4.0	1 4.0	18 72.0	1 4.0	- -	4 16.0

※前回実施日の回答を基に算出

図表 43 種目別 不定期訪問のきっかけ（連絡者等）【複数回答】

	調査数	利用者本人からの連絡	利用者家族からの連絡	介護支援専門員からの連絡	他の介護サービス事業者からの連絡	その他	無回答
車いす(付属品含)	36 100%	8 22.2%	14 38.9%	8 22.2%	1 2.8%	5 13.9%	1 2.8%
特殊寝台(付属品含)	47 100%	3 6.4%	20 42.6%	21 44.7%	1 2.1%	6 12.8%	1 2.1%
床ずれ防止用具	5 100%	-	2 40.0%	1 20.0%	-	1 20.0%	1 20.0%
体位変換器	4 100%	-	2 50.0%	1 25.0%	-	1 25.0%	-
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	37 100%	4 10.8%	9 24.3%	19 51.4%	2 5.4%	2 5.4%	3 8.1%
手すり(寝室・居室・廊下)	52 100%	6 11.5%	14 26.9%	24 46.2%	1 1.9%	7 13.5%	3 5.8%
手すり(トイレ)	17 100%	1 5.9%	7 41.2%	10 58.8%	-	-	-
スロープ	18 100%	2 11.1%	7 38.9%	6 33.3%	-	2 11.1%	2 11.1%
歩行器	39 100%	7 17.9%	10 25.6%	17 43.6%	-	4 10.3%	1 2.6%
歩行補助つえ	7 100%	4 57.1%	3 42.9%	-	1 14.3%	-	1 14.3%
認知症老人徘徊感知機器	3 100%	-	1 33.3%	2 66.7%	-	-	-
移動用リフト(つり具の部分を含む)	9 100%	1 11.1%	4 44.4%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%

図表 44 種目別 不定期訪問の理由【複数回答】

	調査数	故障	事故	社会サービス担当者	相談／要請等	無回答
車いす(付属品含)	36	7 19.4%	-	-	29 80.6%	1 2.8%
特殊寝台(付属品含)	47	3 6.4%	-	7 14.9%	38 80.9%	1 2.1%
床ずれ防止用具	5	-	-	1 20.0%	4 80.0%	-
体位変換器	4	-	-	-	4 100%	-
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	37	1 2.7%	-	8 21.6%	27 73.0%	2 5.4%
手すり(寝室・居室・廊下)	52	4 7.7%	-	11 21.2%	33 63.5%	5 9.6%
手すり(トイレ)	17	2 11.8%	-	2 11.8%	13 76.5%	1 5.9%
スロープ	18	-	-	1 5.6%	16 88.9%	1 5.6%
歩行器	39	4 10.3%	1 2.6%	5 12.8%	28 71.8%	4 10.3%
歩行補助つえ	7	-	-	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%
認知症老人徘徊感知機器	3	-	-	-	2 66.7%	1 33.3%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	9	2 22.2%	-	1 11.1%	8 88.9%	-

② 貸与種目別の対応状況

a) 車いす（付属品含）

車いす（付属品含）の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、操作状況に関わる項目（「誤使用・誤操作」等）では「観察」での確認も3割程度みられた。住環境の状況についても、「聴取」とともに「観察」での確認が半数程度であった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「移乗方法（自立・一部介助・全介助など）」「誤使用・誤操作」「車いす駆動方法」については適合確認の結果を踏まえ、指導も実施していた。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 45 車いす（付属品含） 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)			適合調整 (適合していた場合は「無回答」)					
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							453 100%	96 21.2%	336 74.2%	21 4.6%	453 100%	140 30.9%	288 63.6%	25 5.5%	453 100%	34 7.5%	16 3.5%	403 89.0%
ア 使用頻度	453	405 89.4%	65 14.3%	-	3 0.7%	10 2.2%	440 100%	39 8.9%	393 89.3%	8 1.8%	440 100%	35 8.0%	396 90.0%	9 2.0%	440 100%	11 2.5%	12 2.7%	417 94.8%
イ 誤使用・誤操作	453	303 66.9%	110 24.3%	42 9.3%	34 7.5%	10 2.2%	409 100%	10 2.4%	390 95.4%	9 2.2%	409 100%	49 12.0%	355 86.8%	5 1.2%	409 100%	9 2.2%	11 2.7%	389 95.1%
ウ 移乗方法(自立・一部介助・全介助など)	453	313 69.1%	116 25.6%	73 16.1%	8 1.8%	10 2.2%	436 100%	41 9.4%	387 88.8%	8 1.8%	436 100%	58 13.3%	370 84.9%	8 1.8%	436 100%	12 2.8%	14 3.2%	410 94.0%
エ 車いす駆動方法	453	297 65.6%	133 29.4%	62 13.7%	18 4.0%	10 2.2%	425 100%	13 3.1%	402 94.6%	10 2.4%	425 100%	44 10.4%	374 88.0%	7 1.6%	425 100%	12 2.8%	9 2.1%	404 95.1%
オ 持ち運び・積み下ろし・取り回し状況(折り畳み・サイズ・重量)	453	320 70.6%	95 21.0%	28 6.2%	28 6.2%	11 2.4%	414 100%	10 2.4%	394 95.2%	10 2.4%	414 100%	33 8.0%	374 90.3%	7 1.7%	414 100%	10 2.4%	10 2.4%	394 95.2%
カ 褥瘡及び発赤などの皮膚トラブルの状況	453	328 72.4%	60 13.2%	-	62 13.7%	11 2.4%	380 100%	21 5.5%	351 92.4%	8 2.1%	380 100%	21 5.5%	352 92.6%	7 1.8%	380 100%	10 2.6%	11 2.9%	359 94.5%
キ 痛み・痺れ等の状況	453	331 73.1%	75 16.6%	-	47 10.4%	14 3.1%	392 100%	20 5.1%	364 92.9%	8 2.0%	392 100%	18 4.6%	368 93.9%	6 1.5%	392 100%	8 2.0%	9 2.3%	375 95.7%
ク 座位姿勢の確認、クッションの除圧状況	453	302 66.7%	124 27.4%	27 6.0%	33 7.3%	13 2.9%	407 100%	19 4.7%	379 93.1%	9 2.2%	407 100%	36 8.8%	364 89.4%	7 1.7%	407 100%	14 3.4%	12 2.9%	381 93.6%
ケ クッション等付属品の必要性の状況	453	307 67.8%	101 22.3%	9 2.0%	51 11.3%	11 2.4%	391 100%	15 3.8%	368 94.1%	8 2.0%	391 100%	43 11.0%	341 87.2%	7 1.8%	391 100%	12 3.1%	9 2.3%	370 94.6%
コ (電動車いすの場合)視力聴力判断力の状況	453	118 26.0%	42 9.3%	8 1.8%	284 58.3%	32 7.1%	157 100%	4 2.5%	147 93.6%	6 3.8%	157 100%	9 5.7%	145 92.4%	3 1.9%	157 100%	5 3.2%	6 3.8%	146 93.0%
サ 外出方法・社会参加の状況	453	367 81.0%	58 12.8%	-	25 5.5%	13 2.9%	415 100%	26 6.3%	379 91.3%	10 2.4%	415 100%	19 4.6%	389 93.7%	7 1.7%	415 100%	6 1.4%	12 2.9%	397 95.7%
シ ブレーキ操作の習得状況	453	300 66.2%	120 26.5%	53 11.7%	19 4.2%	11 2.4%	423 100%	7 1.7%	405 95.7%	11 2.6%	423 100%	49 11.6%	367 86.8%	7 1.7%	423 100%	6 1.4%	11 2.6%	406 96.0%
ア 動線の状況(段差・床強度・悪路等)	453	231 51.0%	205 45.3%	34 7.5%	26 5.7%	14 3.1%	413 100%	13 3.1%	389 94.2%	11 2.7%	413 100%	21 5.1%	380 92.0%	12 2.9%	413 100%	7 1.7%	12 2.9%	394 95.4%
イ 取り回し・廊下や間口の寸法・移動時の障害状況(建具・家具・家電製品、片付け具含など)	453	203 44.8%	196 43.3%	36 7.9%	47 10.4%	14 3.1%	392 100%	11 2.8%	370 94.4%	11 2.8%	392 100%	22 5.6%	361 92.1%	9 2.3%	392 100%	6 1.5%	12 3.1%	374 95.4%
ウ ベッド等使用家具との使用状況	453	202 44.6%	152 33.6%	35 7.7%	99 21.9%	14 3.1%	342 100%	8 2.3%	325 95.0%	9 2.6%	342 100%	16 4.7%	317 92.7%	9 2.6%	342 100%	6 1.8%	11 3.2%	325 95.0%
エ 自宅周辺の環境(住宅地・山間部・上り有り)	453	209 46.1%	198 43.7%	10 2.2%	46 10.2%	15 3.3%	392 100%	8 2.0%	371 94.6%	13 3.3%	392 100%	11 2.8%	371 94.6%	10 2.6%	392 100%	5 1.3%	10 2.6%	377 95.4%

b) 特殊寝台（付属品含）

特殊寝台（付属品含）の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、車いす（付属品含）同様、操作状況に関わる項目（「誤使用・誤操作」等）では「観察」での確認も3割程度みられた。住環境の状況についても、「聴取」と合わせて「観察」での確認が6割を超える項目もあった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「手元スイッチ操作・習得方法」「誤使用・誤操作」「マットレスのへたりや汚染の状況」「移乗方法（自立・一部介助・全介助など）」については適合確認の結果を踏まえ、指導も実施していた。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 46 特殊寝台（付属品含） 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)				
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率						524	106	408	10	524	178	329	17	524	56	15	453	
						100%	20.2%	77.9%	1.9%	100%	34.0%	62.8%	3.2%	100%	10.7%	2.9%	86.5%	
ア 使用頻度	524	455	105	-	5	5	514	22	489	3	514	36	473	5	514	16	9	489
		86.8%	20.0%		1.0%	1.0%	100%	4.3%	95.1%	0.6%	100%	7.0%	92.0%	1.0%	100%	3.1%	1.8%	95.1%
イ 誤使用・誤操作	524	376	118	41	38	6	480	7	470	3	480	51	424	5	480	9	9	462
		71.8%	22.5%	7.8%	7.3%	1.1%	100%	1.5%	97.9%	0.6%	100%	10.6%	88.3%	1.0%	100%	1.9%	1.9%	96.3%
ウ 移乗方法(自立・一部介助・全介助など)	524	362	150	89	6	5	513	39	471	3	513	52	455	6	513	17	11	485
		69.1%	28.6%	17.0%	1.1%	1.0%	100%	7.6%	91.8%	0.6%	100%	10.1%	88.7%	1.2%	100%	3.3%	2.1%	94.5%
エ ベッド上での活動状況	524	374	164	54	5	6	513	27	483	3	513	31	477	5	513	14	7	492
		71.4%	31.3%	10.3%	1.0%	1.1%	100%	5.3%	94.2%	0.6%	100%	6.0%	93.0%	1.0%	100%	2.7%	1.4%	95.9%
オ 手元スイッチ操作・習得状況	524	382	122	71	19	6	499	9	487	3	499	76	418	5	499	14	6	479
		72.9%	23.3%	13.5%	3.6%	1.1%	100%	1.8%	97.6%	0.6%	100%	15.2%	83.8%	1.0%	100%	2.8%	1.2%	96.0%
カ 褥瘡・痛み等皮膚トラブルの状況	524	418	93	-	34	7	483	29	451	3	483	40	438	5	483	14	13	456
		79.8%	17.7%		6.5%	1.3%	100%	6.0%	93.4%	0.6%	100%	8.3%	90.7%	1.0%	100%	2.9%	2.7%	94.4%
キ ベッド柵・介助バーの位置(ベッド出入り状況)	524	300	241	61	9	5	510	21	486	3	510	49	455	6	510	19	11	480
		57.3%	46.0%	11.6%	1.7%	1.0%	100%	4.1%	95.3%	0.6%	100%	9.6%	89.2%	1.2%	100%	3.7%	2.2%	94.1%
ク マットレスのへたりや汚染の状況	524	301	268	-	27	5	493	29	461	3	493	52	436	5	493	18	8	467
		57.4%	51.1%		5.2%	1.0%	100%	5.9%	93.5%	0.6%	100%	10.5%	88.4%	1.0%	100%	3.7%	1.6%	94.7%
ケ 移乗頻度	524	397	133	-	16	6	503	22	478	3	503	20	477	6	503	8	10	485
		75.8%	25.4%		3.1%	1.1%	100%	4.4%	95.0%	0.6%	100%	4.0%	94.8%	1.2%	100%	1.6%	2.0%	96.4%
コ ベッド上・ベッド周りの状況	524	227	328	27	9	5	510	12	494	4	510	43	460	7	510	12	9	489
		43.3%	62.6%	5.2%	1.7%	1.0%	100%	2.4%	96.9%	0.8%	100%	8.4%	90.2%	1.4%	100%	2.4%	1.8%	95.9%
サ 寝具の状況(種類や枚数)	524	214	331	-	20	6	498	11	483	4	498	16	476	6	498	10	10	478
		40.8%	63.2%		3.8%	1.1%	100%	2.2%	97.0%	0.8%	100%	3.2%	95.6%	1.2%	100%	2.0%	2.0%	96.0%
シ ベッド設置場所(空調位置等)の状況	524	218	320	-	25	6	493	13	477	3	493	20	467	6	493	12	10	471
		41.6%	61.1%		4.8%	1.1%	100%	2.6%	96.8%	0.6%	100%	4.1%	94.7%	1.2%	100%	2.4%	2.0%	95.5%
住環境の状況																		
ア 寝室内移動動線	524	246	318	-	13	6	505	18	484	3	505	28	472	5	505	13	12	480
		46.9%	60.7%		2.5%	1.1%	100%	3.6%	95.8%	0.6%	100%	5.5%	93.5%	1.0%	100%	2.6%	2.4%	95.0%
イ 食事の場所・テーブルの必要性	524	290	237	-	42	6	476	10	463	3	476	18	454	4	476	8	9	459
		55.3%	45.2%		8.0%	1.1%	100%	2.1%	97.3%	0.6%	100%	3.8%	95.4%	0.8%	100%	1.7%	1.9%	96.4%
フ ベッド昇降の際の周辺状況(畳・敷マット等の滑りやすい物が敷いていない)	524	206	323	41	18	5	501	8	490	3	501	26	469	6	501	10	9	482
		39.3%	61.6%	7.8%	3.4%	1.0%	100%	1.6%	97.8%	0.6%	100%	5.2%	93.6%	1.2%	100%	2.0%	1.8%	96.2%

※1: 実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2: 「実施方法」の無回答を含む

### c) 床ずれ防止用具

床ずれ防止用具の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、「寝具の状況（種類や枚数）」については「観察」での確認が52.6%であり、他の項目よりも多い結果であった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「ポンプパネル設置・操作習得状況」については、利用者はすくないものの13.2%（38件中5件）が適合確認の結果を踏まえ、指導も実施していた。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 47 床ずれ防止用具 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)			適合調整 (適合していた場合は「無回答」)					
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							95	16	72	7	95	16	71	8	95	6	1	88
ア 使用頻度	95	60 63.2%	29 30.5%	-	7 7.4%	6 6.3%	82	4	78	-	82	4	77	1	82	2	2	78
イ 誤使用・誤操作	95	51 53.7%	26 27.4%	2 2.1%	20 21.1%	6 6.3%	69	3	66	-	69	3	65	1	69	1	2	66
ウ 移乗方法(自立・一部介助・全介助など)	95	51 53.7%	27 28.4%	7 7.4%	11 11.6%	6 6.3%	78	3	75	-	78	2	75	1	78	1	1	76
エ 移乗時の座位の状況	95	46 48.4%	31 32.6%	10 10.5%	10 10.5%	6 6.3%	79	4	75	-	79	2	76	1	79	1	1	77
オ 褥瘡・痛み等皮膚トラブルの状況	95	85 89.5%	14 14.7%	-	1 1.1%	5 5.3%	89	12	77	-	89	8	80	1	89	3	2	84
カ 圧迫・ずれ・湿潤状況	95	75 78.9%	18 18.9%	-	1 1.1%	6 6.3%	88	7	81	-	88	7	80	1	88	2	2	84
キ ポンプパネル設定・操作習得状況	95	23 24.2%	20 21.1%	5 5.3%	49 51.6%	8 8.4%	38	2	36	-	38	5	33	-	38	1	-	37
ク 寝心地・睡眠の状況	95	77 81.1%	18 18.9%	-	3 3.2%	6 6.3%	86	5	81	-	86	4	81	1	86	2	1	83
ケ 臥床時間	95	70 73.7%	19 20.0%	-	4 4.2%	7 7.4%	84	3	81	-	84	2	81	1	84	1	1	82
コ 寝具の状況(種類や枚数)	95	39 41.1%	50 52.6%	-	9 9.5%	7 7.4%	79	1	78	-	79	5	73	1	79	2	-	77
住環境の状況	95	57 60.0%	38 40.0%	-	4 4.2%	6 6.3%	85	5	80	-	85	3	81	1	85	2	1	82
イ 冷暖房等空調(室温・湿度)の状況	95	36 37.9%	54 56.8%	-	9 9.5%	6 6.3%	80	2	78	-	80	1	78	1	80	1	1	78
ウ モーター音及び配線	95	20 21.1%	33 34.7%	9 9.5%	36 37.9%	7 7.4%	52	2	50	-	52	3	48	1	52	1	-	51
エ 緊急時の対応(停電時)	95	29 30.5%	16 16.8%	2 2.1%	42 44.2%	7 7.4%	46	3	43	-	46	4	41	1	46	1	-	45

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
 ※2:「実施方法」の無回答を含む

### d) 体位変換器

体位変換器の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、床ずれ防止用具と同様に「寝具の状況（種類や枚数）」については「観察」での確認が30.0%であり、他の項目よりも多い結果であった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も多くが「無」が100%であったが、「ポンプパネル設定・操作習得状況」「圧迫・ずれ・湿潤状況」「褥瘡・痛み等皮膚トラブルの状況」については数件ではあるものの指導も実施されていた。

体位変換器に関する本結果については、調査対象となった利用者数が20名と少数であるため、取り扱いには留意が必要である。

図表 48 体位変換器 適合確認

	実施方法【複数回答】						変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							20	2	18	-	20	5	13	2	20	1	1	18
							100%	10.0%	90.0%	100%	25.0%	65.0%	10.0%	100%	5.0%	5.0%	90.0%	
使用状況																		
ア 使用頻度	20	17	3	-	2	-	18	-	18	-	18	1	16	1	18	-	1	17
		85.0%	15.0%		10.0%		100%		100.0%		100%	5.6%	88.9%	5.6%	100%		5.6%	94.4%
イ 誤使用・誤操作	20	17	4	2	1	-	19	-	19	-	19	1	17	1	19	-	1	18
		85.0%	20.0%	10.0%	5.0%		100%		100.0%		100%	5.3%	89.5%	5.3%	100%		5.3%	94.7%
ウ 移乗方法(自立・一部介助・全介助など)	20	16	3	3	2	-	18	-	18	-	18	-	17	1	18	-	1	17
		80.0%	15.0%	15.0%	10.0%		100%		100.0%		100%		94.4%	5.6%	100%		5.6%	94.4%
エ 移乗時の座位の状況	20	15	1	-	4	-	16	-	16	-	16	-	15	1	16	-	1	15
		75.0%	5.0%		20.0%		100%		100.0%		100%		93.8%	6.3%	100%		6.3%	93.8%
オ 褥瘡・痛み等皮膚トラブルの状況	20	19	3	-	1	-	19	1	18	-	19	2	16	1	19	1	-	18
		95.0%	15.0%		5.0%		100%	5.3%	94.7%		100%	10.5%	84.2%	5.3%	100%	5.3%		94.7%
カ 圧迫・ずれ・湿潤状況	20	19	3	-	1	-	19	1	18	-	19	2	16	1	19	-	1	18
		95.0%	15.0%		5.0%		100%	5.3%	94.7%		100%	10.5%	84.2%	5.3%	100%		5.3%	94.7%
キ ポンプパネル設定・操作習得状況	20	13	3	1	5	-	15	-	15	-	15	2	12	1	15	-	1	14
		65.0%	15.0%	5.0%	25.0%		100%		100.0%		100%	13.3%	80.0%	6.7%	100%		6.7%	93.3%
ク 寝心地・睡眠の状況	20	17	2	-	3	-	17	-	17	-	17	-	16	1	17	-	-	17
		85.0%	10.0%		15.0%		100%		100.0%		100%		94.1%	5.9%	100%			100.0%
ケ 臥床時間	20	17	3	-	2	-	18	-	18	-	18	-	17	1	18	-	-	18
		85.0%	15.0%		10.0%		100%		100.0%		100%		94.4%	5.6%	100%			100.0%
コ 寝具の状況(種類や枚数)	20	15	6	-	1	-	19	-	19	-	19	-	18	1	19	-	-	19
		75.0%	30.0%		5.0%		100%		100.0%		100%		94.7%	5.3%	100%			100.0%
住環境の状況																		
ア ベッド利用状況	20	17	4	-	1	-	19	-	19	-	19	-	18	1	19	-	-	19
		85.0%	20.0%		5.0%		100%		100.0%		100%		94.7%	5.3%	100%			100.0%
イ 冷暖房等空調(室温・湿度)の状況	20	15	6	-	2	-	18	1	17	-	18	-	17	1	18	-	-	18
		75.0%	30.0%		10.0%		100%	5.6%	94.4%		100%		94.4%	5.6%	100%			100.0%
ウ モーター音及び配線	20	12	3	1	6	-	14	-	14	-	14	-	13	1	14	-	-	14
		60.0%	15.0%	5.0%	30.0%		100%		100.0%		100%		92.9%	7.1%	100%			100.0%
エ 緊急時の対応(停電時)	20	13	2	-	6	-	14	-	14	-	14	2	11	1	14	-	-	14
		65.0%	10.0%		30.0%		100%		100.0%		100%	14.3%	78.6%	7.1%	100%			100.0%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
 ※2:「実施方法」の無回答を含む

e) 手すり

手すりについては、使用場所別によって用具の特徴が異なるため、以下の3つに区分し、それぞれの適合確認の実施状況等の回答を得た。

- ・手すり（玄関上がりかまち・玄関外）
- ・手すり（寝室・居室・廊下）
- ・手すり（トイレ）

いずれの区分においても、適合確認の実施方法について使用状況の確認は「聴取」での確認を実施しつつ、「手すりを設置した場所の適合確認」「手すりのぐらつきの状況」「手すり高さの状況」については「観察での確認も合わせて実施されていた。特に「手すりのぐらつきの状況」については「動作確認」も約3割実施されていた。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「手すり（玄関上がりかまち・玄関外）」では「手すりを使用した動作の状況」「手すりのぐらつきの状況」で、「手すり（寝室・居室・廊下）」では「手すりを設置した場所の適合状況」「手すりのぐらつきの状況」指導が実施されていた。「手すり（トイレ）」についても実施数は少ないが必要に応じて指導も実施していた。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 49 手すり（玄関上がりかまち・玄関外） 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)					
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)	
発生件数/発生率							384 100%	43 11.2%	316 82.3%	25 6.5%	384 100%	74 19.3%	276 71.9%	34 8.9%	384 100%	26 6.8%	9 2.3%	349 90.9%	
使用状況	ア 使用頻度	384	336 87.5%	62 16.1%	-	-	14 3.6%	370 100%	23 6.2%	339 91.6%	22 2.2%	8 100%	370 7.8%	29 89.2%	330 3.0%	11 100%	370 2.4%	9 1.9%	354 95.7%
	イ 誤使用・誤操作	384	259 67.4%	83 21.6%	29 7.6%	37 9.6%	14 3.6%	333 100%	4 1.2%	320 96.1%	9 2.7%	9 100%	22 6.6%	301 90.4%	10 3.0%	333 100%	5 1.5%	5 1.5%	323 97.0%
	ウ 室内外での活動状況	384	292 76.0%	80 20.8%	31 8.1%	8 2.1%	14 3.6%	362 100%	22 6.1%	332 91.7%	8 2.2%	8 100%	362 7.7%	28 89.2%	323 3.0%	11 100%	362 2.5%	9 1.9%	346 95.6%
	エ 移乗方法	384	218 56.8%	80 20.8%	31 8.1%	73 19.0%	14 3.6%	297 100%	9 3.0%	281 94.6%	7 2.4%	7 100%	297 7.1%	21 89.6%	266 3.4%	10 100%	297 2.4%	7 1.0%	287 96.6%
	オ 手すりを使用した動作の状況	384	245 63.8%	105 27.3%	84 21.9%	8 0.5%	14 3.6%	368 100%	19 5.2%	341 92.7%	8 2.2%	8 100%	368 10.1%	37 87.0%	320 3.0%	11 100%	368 2.7%	10 1.9%	351 95.4%
	カ 手すり把持部の適合状況	384	233 60.7%	117 30.5%	71 18.5%	7 1.8%	14 3.6%	363 100%	7 1.9%	348 95.9%	8 2.2%	8 100%	363 8.3%	30 88.7%	322 3.0%	11 100%	363 2.8%	10 1.7%	347 95.6%
	キ 手すりを設置した場所の適合状況	384	194 50.5%	171 44.5%	73 19.0%	4 1.0%	14 3.6%	366 100%	10 2.7%	349 95.4%	7 1.9%	7 100%	366 8.5%	31 88.5%	324 3.0%	11 100%	366 3.3%	12 2.2%	346 94.5%
	ク 手すり高さの状況	384	219 57.0%	134 34.9%	77 20.1%	7 1.8%	14 3.6%	363 100%	6 1.7%	349 96.1%	8 2.2%	8 100%	363 8.8%	32 88.2%	320 3.0%	11 100%	363 3.9%	14 1.4%	344 94.8%
ケ 手すりのぐらつきの状況	384	162 42.2%	151 39.3%	122 31.8%	4 1.0%	14 3.6%	366 100%	8 2.2%	350 95.6%	8 2.2%	8 100%	366 12.6%	46 84.7%	310 2.7%	100%	366 5.7%	21 1.4%	340 92.9%	
住環境の状況	ア 設置面の強度	384	106 27.6%	205 53.4%	90 23.4%	17 4.4%	14 3.6%	353 100%	6 1.7%	338 95.8%	9 2.5%	9 100%	353 6.5%	23 89.8%	317 3.7%	13 100%	353 3.1%	11 2.0%	335 94.9%
	イ 生活動線の状況	384	180 46.9%	209 54.4%	-	8 2.1%	24 6.3%	352 100%	8 2.3%	335 95.2%	9 2.6%	9 100%	352 6.5%	23 90.6%	319 2.8%	100%	352 2.3%	8 2.3%	336 95.5%
	ウ 設置面の凹凸・傾斜	384	105 27.3%	217 56.5%	65 16.9%	20 5.2%	14 3.6%	350 100%	3 0.9%	338 96.6%	9 2.6%	9 100%	350 6.3%	22 90.3%	316 3.4%	12 100%	350 2.3%	6 1.7%	336 96.0%
	エ 通路・設置場所の広さ	384	109 28.4%	231 60.2%	51 13.3%	19 4.9%	14 3.6%	351 100%	4 1.1%	337 96.0%	10 2.8%	10 100%	351 5.1%	18 91.5%	321 3.4%	12 100%	351 2.3%	8 2.0%	336 95.7%
	オ ベッド等使用家具との適合状況	384	93 24.2%	126 32.8%	23 6.0%	146 38.0%	15 3.9%	223 100%	3 1.3%	214 96.0%	6 2.7%	6 100%	223 4.0%	9 91.5%	204 4.5%	100%	223 3.1%	7 1.3%	213 95.5%
カ 住宅改修の可否	384	156 40.6%	111 28.9%	11 2.9%	108 28.1%	15 3.9%	261 100%	4 1.5%	249 95.4%	8 3.1%	8 100%	261 5.4%	14 89.7%	234 5.0%	13 100%	261 2.3%	6 3.1%	247 94.6%	

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
 ※2:「実施方法」の無回答を含む

図表 50 手すり（寝室・居室・廊下） 適合確認

	実施方法【複数回答】						変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)						
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)			
発生件数/発生率							568	77	464	27	568	133	391	44	568	51	20	497			
							100%	13.6%	81.7%	4.8%	100%	23.4%	68.8%	7.7%	100%	9.0%	3.5%	87.5%			
使用状況	ア 使用頻度	568	492 86.6%	108 19.0%	-	3	19	546	26	513	7	546	45	491	10	546	11	20	515		
	イ 誤使用・誤操作	568	373 65.7%	131 23.1%	9.3%	9.3%	53	19	496	5	483	8	496	40	445	11	496	6	17	473	
	ウ 室内外での活動状況	568	412 72.5%	128 22.5%	9.5%	4.9%	28	20	520	22	490	8	520	34	476	10	520	8	18	494	
	エ 移乗方法	568	322 56.7%	150 26.4%	14.1%	13.2%	80	75	21	473	18	447	8	473	42	422	9	473	8	22	443
	オ 手すり把持部の適合状況	568	354 62.3%	192 33.8%	19.0%	1.6%	3.3%	100%	1.5%	97.2%	1.3%	100%	6.1%	91.9%	2.0%	100%	1.9%	3.3%	94.8%		
	カ 把持する手すり形状の適合状況	568	338 59.5%	200 35.2%	18.3%	1.9%	3.3%	100%	1.5%	97.0%	1.5%	100%	5.4%	92.7%	1.9%	100%	1.7%	3.2%	95.2%		
	キ 手すりを設置した場所の適合状況	568	347 61.1%	211 37.1%	20.6%	0.7%	3.7%	100%	3.3%	95.0%	1.7%	100%	10.5%	87.7%	1.8%	100%	3.9%	2.4%	93.7%		
	ク 手すり高さの状況	568	350 61.6%	211 37.1%	22.7%	1.6%	3.5%	100%	1.9%	96.8%	1.3%	100%	9.3%	88.7%	2.0%	100%	3.0%	3.0%	94.1%		
	ケ 手すりのぐらつき状況	568	282 49.6%	219 38.6%	35.0%	0.2%	3.5%	100%	3.1%	95.2%	1.6%	100%	12.4%	85.6%	2.0%	100%	5.3%	2.6%	92.1%		
	住環境の状況	ア 設置面の強度	568	191 33.6%	300 52.8%	21.0%	4.2%	3.7%	100%	0.8%	97.7%	1.5%	100%	5.0%	92.9%	2.1%	100%	1.9%	3.1%	95.0%	
イ 生活動線の状況		568	276 48.6%	306 53.9%	-	17	27	524	15	501	8	524	36	477	11	524	11	14	499		
ウ 設置面の凹凸・傾斜		568	189 33.3%	311 54.8%	14.3%	6.3%	3.7%	100%	1.2%	97.3%	1.6%	100%	4.5%	93.3%	2.2%	100%	1.4%	2.9%	95.7%		
エ 通路・設置場所の広さ		568	197 34.7%	328 57.7%	12.3%	4.2%	3.7%	100%	1.7%	96.9%	1.7%	100%	4.2%	93.5%	2.3%	100%	1.9%	3.1%	95.0%		
オ ベッド等使用家具との適合状況		568	201 35.4%	286 50.4%	13.9%	9.7%	2.1%	100%	1.0%	97.6%	1.4%	100%	5.9%	92.1%	2.0%	100%	2.2%	3.0%	94.7%		
カ 住宅改修の可否		568	214 37.7%	183 32.2%	3.3%	28.9%	4.2%	100%	2.1%	95.5%	2.4%	100%	5.0%	92.4%	2.6%	100%	2.1%	3.4%	94.5%		

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
※2:「実施方法」の無回答を含む

図表 51 手すり（トイレ） 適合確認

	実施方法【複数回答】						変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)				
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)	
発生件数/発生率							214	17	179	18	214	32	157	25	214	10	2	202	
							100%	7.9%	83.6%	8.4%	100%	15.0%	73.4%	11.7%	100%	4.7%	0.9%	94.4%	
使用状況	ア 使用頻度	214	174 81.3%	38 17.8%	-	1	16	198	8	189	1	198	12	182	4	198	4	3	191
	イ 誤使用・誤操作	214	142 66.4%	38 17.8%	6.1%	11.2%	7.9%	100%	0.6%	98.9%	0.6%	100%	5.1%	93.1%	1.7%	100%	0.6%	1.1%	98.3%
	ウ 室内外での活動状況	214	130 60.7%	43 20.1%	6.1%	13.6%	8.4%	100%	4.2%	95.2%	0.6%	100%	3.6%	94.0%	2.4%	100%	1.8%	0.6%	97.6%
	エ 移乗方法	214	130 60.7%	46 21.5%	7.5%	10.7%	8.4%	100%	3.5%	96.0%	0.6%	100%	5.8%	92.5%	1.7%	100%	2.3%	1.2%	96.5%
	オ 手すりを使用した動作の状況	214	154 72.0%	42 19.6%	12.6%	1.4%	7.9%	100%	3.1%	95.9%	1.0%	100%	9.8%	88.1%	2.1%	100%	2.6%	1.0%	96.4%
	カ 手すり把持部の適合状況	214	138 64.5%	49 22.9%	13.6%	2.3%	7.9%	100%	1.0%	97.9%	1.0%	100%	6.8%	91.1%	2.1%	100%	1.6%	1.6%	96.9%
	キ 手すりを設置した場所の適合状況	214	128 59.8%	64 29.9%	14.0%	2.3%	7.5%	100%	1.0%	97.9%	1.0%	100%	7.3%	90.7%	2.1%	100%	2.6%	1.6%	95.9%
	ク 手すり高さの状況	214	134 62.6%	55 25.7%	15.4%	3.7%	7.9%	100%	0.5%	98.4%	1.1%	100%	6.9%	91.0%	2.1%	100%	2.1%	1.1%	96.8%
	ケ 手すりのぐらつき状況	214	102 47.7%	73 34.1%	29.0%	0.9%	7.5%	100%	1.5%	97.4%	1.0%	100%	9.7%	88.3%	2.0%	100%	3.6%	1.0%	95.4%
	住環境の状況	ア 設置面の強度	214	67 31.3%	102 47.7%	17.8%	6.5%	7.5%	100%	0.5%	98.4%	1.1%	100%	4.9%	92.9%	2.2%	100%	1.6%	1.1%
イ 生活動線の状況		214	87 40.7%	106 49.5%	-	14	19	181	2	177	2	181	8	169	4	181	3	1	177
ウ 設置面の凹凸・傾斜		214	61 28.5%	108 50.5%	13.1%	7.9%	7.5%	100%	0.6%	98.3%	1.1%	100%	3.9%	93.9%	2.2%	100%	1.7%	0.6%	97.8%
エ 通路・設置場所の広さ		214	66 30.8%	116 54.2%	9.8%	6.5%	7.5%	100%	0.5%	98.4%	1.1%	100%	4.3%	93.5%	2.2%	100%	1.6%	0.5%	97.8%
オ ベッド等使用家具との適合状況		214	49 22.9%	78 36.4%	4.2%	31.8%	8.4%	100%	0.8%	99.2%	-	128	2	123	3	128	3	1	124
カ 住宅改修の可否		214	74 34.6%	63 29.4%	2.3%	29.9%	8.4%	100%	0.7%	98.5%	0.7%	100%	3.7%	92.5%	3.7%	100%	2.2%	0.7%	97.0%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
※2:「実施方法」の無回答を含む

f) スロープ

スロープの適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、使用状況の「傾斜角度の適合状況」「保管状況」「すべり止めの状況（設置個所・走行面）」では「観察」での確認も5割を超えていた。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」9割を超えていたが、「移動方法」「すべり止めの状況（設置個所・走行面）」「使用頻度」「傾斜角度の適合状況」等については、件数は少ないが指導も実施していた。再調整の実施等も数件であったが、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 52 スロープ 適合確認

	実施方法【複数回答】						変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							138	10	122	6	138	17	111	10	138	4	2	132
							100%	7.2%	88.4%	4.3%	100%	12.3%	80.4%	7.2%	100%	2.9%	1.4%	95.7%
使用状況																		
ア 使用頻度	138	113	34	-	2	2	134	4	128	2	134	6	124	4	134	2	2	130
		81.9%	24.6%		1.4%	1.4%	100%	3.0%	95.5%	1.5%	100%	4.5%	92.5%	3.0%	100%	1.5%	1.5%	97.0%
イ 誤使用・誤操作	138	87	41	10	14	2	122	-	120	2	122	2	116	4	122	1	2	119
		63.0%	29.7%	7.2%	10.1%	1.4%	100%		98.4%	1.6%	100%	1.6%	95.1%	3.3%	100%	0.8%	1.6%	97.5%
ウ 移動方法	138	91	51	12	3	3	132	5	125	2	132	11	117	4	132	4	2	126
		65.9%	37.0%	8.7%	2.2%	2.2%	100%	3.8%	94.7%	1.5%	100%	8.3%	88.6%	3.0%	100%	3.0%	1.5%	95.5%
エ 傾斜角度の適合状況	138	70	76	14	4	2	132	1	128	3	132	6	122	4	132	2	2	128
		50.7%	55.1%	10.1%	2.9%	1.4%	100%	0.8%	97.0%	2.3%	100%	4.5%	92.4%	3.0%	100%	1.5%	1.5%	97.0%
オ 保管状況	138	63	74	8	13	3	122	-	120	2	122	4	114	4	122	1	2	119
		45.7%	53.6%	5.8%	9.4%	2.2%	100%		98.4%	1.6%	100%	3.3%	93.4%	3.3%	100%	0.8%	1.6%	97.5%
カ 持ち運び・積み下ろし・設置状況(折り畳み・サイズ・重量)	138	64	47	10	29	3	106	-	104	2	106	1	101	4	106	1	2	103
		46.4%	34.1%	7.2%	21.0%	2.2%	100%		98.1%	1.9%	100%	0.9%	95.3%	3.8%	100%	0.9%	1.9%	97.2%
キ すべり止めの状況(設置個所・走行面)	138	59	77	29	4	3	131	1	128	2	131	8	119	4	131	3	2	126
		42.8%	55.8%	21.0%	2.9%	2.2%	100%	0.8%	97.7%	1.5%	100%	6.1%	90.8%	3.1%	100%	2.3%	1.5%	96.2%
ク 外出方法・社会参加の状況	138	86	25	-	29	3	106	1	103	2	106	3	99	4	106	1	2	103
		62.3%	18.1%		21.0%	2.2%	100%	0.9%	97.2%	1.9%	100%	2.8%	93.4%	3.8%	100%	0.9%	1.9%	97.2%
住環境の状況																		
ア 生活動線	138	70	82	9	3	2	133	3	128	2	133	6	123	4	133	2	2	129
		50.7%	59.4%	6.5%	2.2%	1.4%	100%	2.3%	96.2%	1.5%	100%	4.5%	92.5%	3.0%	100%	1.5%	1.5%	97.0%
イ 設置面の強度	138	51	85	20	6	2	130	1	126	3	130	4	122	4	130	2	2	126
		37.0%	61.6%	14.5%	4.3%	1.4%	100%	0.8%	96.9%	2.3%	100%	3.1%	93.8%	3.1%	100%	1.5%	1.5%	96.9%
ウ 設置面の凹凸	138	51	84	22	5	2	131	-	128	3	131	3	124	4	131	1	2	128
		37.0%	60.9%	15.9%	3.6%	1.4%	100%		97.7%	2.3%	100%	2.3%	94.7%	3.1%	100%	0.8%	1.5%	97.7%
エ 通路・設置場所の広さ	138	53	83	16	9	2	127	-	124	3	127	2	121	4	127	1	2	124
		38.4%	60.1%	11.6%	6.5%	1.4%	100%		97.6%	2.4%	100%	1.6%	95.3%	3.1%	100%	0.8%	1.6%	97.6%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
 ※2:「実施方法」の無回答を含む

g) 歩行器

歩行器の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、車いす（付属品含）と同様に操作状況に関わる項目（「誤使用・誤操作」等）では「観察」での確認も3割程度実施されており、特に「歩行器脚部の状況」は5割を超えていた。また、「歩行姿勢・歩行動作状況」「歩行器の高さ」については「動作確認」も3割程度で実施していた。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「ブレーキ操作の習得状況」「歩行姿勢・歩行動作状況」「誤使用・誤操作」「歩行器の高さ」については指導の実施も1割程度で実施されており、他の種目と比較して利用者数が多いこともあるが、使用時の事故に直結する項目であることも要因と考えられる。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 53 歩行器 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)				
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							591	124	438	29	591	187	369	35	591	72	29	490
							100%	21.0%	74.1%	4.9%	100%	31.6%	62.4%	5.9%	100%	12.2%	4.9%	82.9%
使用状況																		
ア 使用頻度	591	537	76	-	2	13	577	51	513	13	577	37	527	13	577	19	28	530
		90.9%	12.9%		0.3%	2.2%	100%	8.8%	88.9%	2.3%	100%	6.4%	91.3%	2.3%	100%	3.3%	4.9%	91.9%
イ 誤使用・誤操作	591	389	166	82	34	12	546	8	525	13	546	64	468	14	546	14	22	510
		65.8%	28.1%	13.9%	5.8%	2.0%	100%	1.5%	96.2%	2.4%	100%	11.7%	85.7%	2.6%	100%	2.6%	4.0%	93.4%
ウ 移乗方法	591	301	169	75	91	14	486	8	468	10	486	26	449	11	486	14	22	450
		50.9%	28.6%	12.7%	15.4%	2.4%	100%	1.6%	96.3%	2.1%	100%	5.3%	92.4%	2.3%	100%	2.9%	4.5%	92.6%
エ 歩行姿勢・歩行動作状況	591	334	204	168	3	12	576	47	516	13	576	83	479	14	576	24	26	526
		56.5%	34.5%	28.4%	0.5%	2.0%	100%	8.2%	89.6%	2.3%	100%	14.4%	83.2%	2.4%	100%	4.2%	4.5%	91.3%
オ 歩行器の高さ	591	378	201	157	4	12	575	25	537	13	575	59	503	13	575	32	22	521
		64.0%	34.0%	26.6%	0.7%	2.0%	100%	4.3%	93.4%	2.3%	100%	10.3%	87.5%	2.3%	100%	5.6%	3.8%	90.6%
カ 歩行時間・距離状況	591	472	100	53	7	12	572	41	518	13	572	28	528	16	572	10	25	537
		79.9%	16.9%	9.0%	1.2%	2.0%	100%	7.2%	90.6%	2.3%	100%	4.9%	92.3%	2.8%	100%	1.7%	4.4%	93.9%
キ 持ち運び・積み下ろし・取り回し状況(折り畳み・サイズ・重量)	591	389	166	48	32	12	547	9	525	13	547	30	504	13	547	12	24	511
		65.8%	28.1%	8.1%	5.4%	2.0%	100%	1.6%	96.0%	2.4%	100%	5.5%	92.1%	2.4%	100%	2.2%	4.4%	93.4%
ク 歩行器脚部の状況	591	272	329	-	25	14	552	14	524	14	552	47	492	13	552	23	21	508
		46.0%	55.7%		4.2%	2.4%	100%	2.5%	94.9%	2.5%	100%	8.5%	89.1%	2.4%	100%	4.2%	3.8%	92.0%
ケ 外出方法・社会参加の状況	591	466	90	-	39	13	540	20	506	14	540	21	506	13	540	8	24	508
		78.8%	15.2%		6.6%	2.2%	100%	3.7%	93.7%	2.6%	100%	3.9%	93.7%	2.4%	100%	1.5%	4.4%	94.1%
コ ブレーキ操作の習得状況	591	348	169	112	61	13	519	12	496	11	519	84	424	11	519	18	20	481
		58.9%	28.6%	19.0%	10.3%	2.2%	100%	2.3%	95.6%	2.1%	100%	16.2%	81.7%	2.1%	100%	3.5%	3.9%	92.7%
住環境の状況																		
ア 動線の状況(段差・床強度・悪路等)	591	289	321	-	23	13	555	5	537	13	555	33	508	14	555	11	21	523
		48.9%	54.3%		3.9%	2.2%	100%	0.9%	96.8%	2.3%	100%	5.9%	91.5%	2.5%	100%	2.0%	3.8%	94.2%
イ 取り回し・廊下や間口の寸法・移動時の障害状況(建具・家具・家電製品、片付け具など)	591	250	318	55	35	12	545	5	528	12	545	24	509	12	545	14	21	510
		42.3%	53.8%	9.3%	5.9%	2.0%	100%	0.9%	96.9%	2.2%	100%	4.4%	93.4%	2.2%	100%	2.6%	3.9%	93.6%
ウ 通路面の仕様(畳、床、フローリング、舗装、砂利等)	591	254	349	-	23	13	556	5	538	13	556	26	517	13	556	11	20	525
		43.0%	59.1%		3.9%	2.2%	100%	0.9%	96.8%	2.3%	100%	4.7%	93.0%	2.3%	100%	2.0%	3.6%	94.4%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

## h) 歩行補助つえ

歩行補助つえの適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、歩行器と同様に操作状況に関わる項目（「誤使用・誤操作」等）では「観察」での確認も3割程度実施されていた。特に「杖先ゴムの状況」で66.9%、「杖の形状・種類」で47.0%という結果であり、他の種目よりも多く実施されていた。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、いずれの項目も「無」が9割以上であったが、「杖先ゴムの状況」「歩行姿勢・歩行動作状況」「使用頻度」等については指導の実施も1割程度で実施されていた。

適合調整については、「再調整実施」「他職種に相談」は少数に留まるものの、個別回答を確認すると変化の有無にかかわらず適宜実施していることがわかった。

図表 54 歩行補助つえ 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無			指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)					
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							166	38	116	12	166	41	109	16	166	16	3	147
							100%	22.9%	69.9%	7.2%	100%	24.7%	65.7%	9.6%	100%	9.6%	1.8%	88.6%
使用状況																		
ア 使用頻度	166	144	21	-	1	9	156	16	137	3	156	18	136	2	156	5	4	147
		86.7%	12.7%		0.6%	5.4%	100%	10.3%	87.8%	1.9%	100%	11.5%	87.2%	1.3%	100%	3.2%	2.6%	94.2%
イ 誤使用・誤操作	166	106	54	12	9	9	148	2	144	2	148	15	132	1	148	5	2	141
		63.9%	32.5%	7.2%	5.4%	5.4%	100%	1.4%	97.3%	1.4%	100%	10.1%	89.2%	0.7%	100%	3.4%	1.4%	95.3%
ウ 移乗方法	166	87	31	3	49	9	109	2	106	1	109	6	103	-	109	3	2	104
		52.4%	18.7%	1.8%	29.5%	5.4%	100%	1.8%	97.2%	0.9%	100%	5.5%	94.5%		100%	2.8%	1.8%	95.4%
エ 歩行姿勢・歩行動作状況	166	108	59	28	1	9	156	15	139	2	156	20	135	1	156	4	2	150
		65.1%	35.5%	16.9%	0.6%	5.4%	100%	9.6%	89.1%	1.3%	100%	12.8%	86.5%	0.6%	100%	2.6%	1.3%	96.2%
オ 歩行補助つえの高さ	166	108	60	26	-	9	157	2	152	3	157	16	140	1	157	3	2	152
		65.1%	36.1%	15.7%		5.4%	100%	1.3%	96.8%	1.9%	100%	10.2%	89.2%	0.6%	100%	1.9%	1.3%	96.8%
カ 歩行時間・距離状況	166	130	33	6	1	9	156	15	138	3	156	10	145	1	156	3	2	151
		78.3%	19.9%	3.6%	0.6%	5.4%	100%	9.6%	88.5%	1.9%	100%	6.4%	92.9%	0.6%	100%	1.9%	1.3%	96.8%
キ 持ち運び・積み下ろし・取り出し状況(折り畳み・サイズ・重量)	166	102	43	5	17	9	140	6	131	3	140	10	129	1	140	5	2	133
		61.4%	25.9%	3.0%	10.2%	5.4%	100%	4.3%	93.6%	2.1%	100%	7.1%	92.1%	0.7%	100%	3.6%	1.4%	95.0%
ク 杖先ゴムの状況	166	63	111	-	1	10	155	15	138	2	155	27	127	1	155	14	2	139
		38.0%	66.9%		0.6%	6.0%	100%	9.7%	89.0%	1.3%	100%	17.4%	81.9%	0.6%	100%	9.0%	1.3%	89.7%
ケ 外出方法・社会参加の状況	166	121	25	-	15	9	142	7	133	2	142	10	131	1	142	3	3	136
		72.9%	15.1%		9.0%	5.4%	100%	4.9%	93.7%	1.4%	100%	7.0%	92.3%	0.7%	100%	2.1%	2.1%	95.8%
コ 杖の形状・種類	166	85	78	9	4	9	153	4	147	2	153	9	143	1	153	5	2	146
		51.2%	47.0%	5.4%	2.4%	5.4%	100%	2.6%	96.1%	1.3%	100%	5.9%	93.5%	0.7%	100%	3.3%	1.3%	95.4%
住環境の状況																		
ア 動線の状況(段差・床強度・悪路等)	166	78	87	-	6	9	151	4	145	2	151	9	141	1	151	3	2	146
		47.0%	52.4%		3.6%	5.4%	100%	2.6%	96.0%	1.3%	100%	6.0%	93.4%	0.7%	100%	2.0%	1.3%	96.7%
イ 取り回し・廊下や間口の寸法・移動時の障害状況(建具・家具・家電製品、片付け具など)	166	73	84	3	10	9	147	1	144	2	147	8	137	2	147	3	2	142
		44.0%	50.6%	1.8%	6.0%	5.4%	100%	0.7%	98.0%	1.4%	100%	5.4%	93.2%	1.4%	100%	2.0%	1.4%	96.6%
ウ 通路面の仕様(畳、床、フローリング、舗装、砂利等)	166	69	93	-	6	9	151	3	146	2	151	8	141	2	151	5	2	144
		41.6%	56.0%		3.6%	5.4%	100%	2.0%	96.7%	1.3%	100%	5.3%	93.4%	1.3%	100%	3.3%	1.3%	95.4%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

i) 認知症徘徊感知機器

徘徊感知機器の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、「徘徊行為に対するセンサー反応・適合状況」「徘徊動線の状況」では「観察」での確認も3割程度実施されていた。また、「動作確認」についても「徘徊行為に対するセンサー反応・適合状況」で46.2%、「徘徊機器設置・操作習得状況」で30.8%という結果であり、住環境の状況にある「センサー設置場所の状況」「センサー（電波）の受信状況」についてもそれぞれ46.2%という結果であった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、「無」が100%という回答が多いが、「徘徊行為に対するセンサー反応・適合状況」「徘徊機器設定・操作習得状況」等については件数は少ないものの、指導も実施されていた。

徘徊感知機器に関する本結果については、調査対象となった利用者数が13名と少数であるため、取り扱いには留意が必要である。

図表 55 認知症徘徊感知機器 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無			指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)			適合調整 (適合していた場合は「無回答」)						
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							13 100	2 15.4%	11 84.6%	-	13 100	3 23.1%	9 69.2%	-	13 100	2 15.4%	-	11 84.6%
使用状況																		
ア 使用頻度	13	11 84.6%	3 23.1%	-	-	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
イ 誤使用・誤操作	13	8 61.5%	2 15.4%	3 23.1%	-	-	13 100	-	13 100.0%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
ウ 徘徊の時間帯・頻度	13	12 92.3%	1 7.7%	-	-	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
エ 危険行動・予測不能行動状況	13	11 84.6%	2 15.4%	-	-	-	13 100	-	13 100.0%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
オ 徘徊行為に対するセンサー反応・適合状況	13	8 61.5%	4 30.8%	6 46.2%	-	-	13 100	-	13 100.0%	-	13 100	2 15.4%	11 84.6%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
カ 徘徊機器設定・操作習得状況	13	10 76.9%	3 23.1%	4 30.8%	-	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	2 15.4%	11 84.6%	-	13 100	2 15.4%	-	11 84.6%
キ 徘徊動線の状況	13	10 76.9%	4 30.8%	-	-	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
ク 誤報の発生状況	13	10 76.9%	2 15.4%	-	1 7.7%	-	13 100	-	12 100.0%	-	13 100	1 8.3%	11 91.7%	-	13 100	1 8.3%	-	11 91.7%
住環境の状況																		
ア センサー設置場所の状況	13	8 61.5%	3 23.1%	6 46.2%	-	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	2 15.4%	11 84.6%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
イ センサー（電波）受信状況	13	7 53.8%	4 30.8%	6 46.2%	-	-	13 100	-	13 100.0%	-	13 100	2 15.4%	11 84.6%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%
ウ 転倒・滑落の可能性（ベッド周りの状態、配線の取り直し、物の散乱等）	13	9 69.2%	5 38.5%	-	-	-	13 100	-	13 100.0%	-	13 100	1 7.7%	12 92.3%	-	13 100	1 7.7%	-	12 92.3%

※1: 実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
 ※2: 「実施方法」の無回答を含む

j) 移動用リフト（つり具の部分を含む）

移動用リフト（つり具の部分を含む）の適合確認の実施方法は、いずれの確認項目も「聴取」での確認を実施しつつ、使用状況の「リフト種類の適合状況」「他の福祉用具との適合状況」では「観察」での確認もそれぞれ 43.6%、33.3%と多い結果であった。

使用状況や住環境の状況における変化の有無は、「無」が 100%となっている項目が多いが、「停電時等緊急対応方法習得状況」「誤使用・誤操作」「機器操作習得状況」については件数は少ないものの指導も実施されていた。

移動用リフト（つり具の部分を含む）に関する本結果についても、調査対象となった利用者数が 39 名と少数であるため、取り扱いには留意が必要である。

図表 56 移動用リフト（つり具の部分を含む） 適合確認

	実施方法【複数回答】					変化の有無			指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)					
	調査数	聴取	観察	動作確認	該当なし	無回答	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
発生件数/発生率							39 100	2 5.1%	36 92.3%	-	39 100	8 20.5%	29 74.4%	2	39 100	1 2.6%	-	38 97.4%
使用状況																		
ア 使用頻度	39	31 79.5%	9 23.1%	-	1 2.6%	1 2.6%	37 100%	1 2.7%	36 97.3%	-	37 100%	-	36 97.3%	1 2.7%	37 100%	-	-	37 100.0%
イ 誤使用・誤操作	39	29 74.4%	7 17.9%	5 12.8%	1 2.6%	1 2.6%	37 100%	1 2.7%	36 97.3%	-	37 100%	3 8.1%	33 89.2%	1 2.7%	37 100%	-	-	37 100.0%
ウ リフト種類の適合状況	39	22 56.4%	17 43.6%	4 10.3%	1 2.6%	1 2.6%	37 100%	-	37 100.0%	-	37 100%	-	36 97.3%	1 2.7%	37 100%	-	-	37 100.0%
エ 褥瘡・痛み等皮膚トラブルの状況	39	18 46.2%	8 20.5%	-	14 35.9%	1 2.6%	25 100%	-	25 100.0%	-	25 100%	-	25 100.0%	-	25 100%	-	-	25 100.0%
オ 他の福祉用具との適合状況	39	15 38.5%	13 33.3%	2 5.1%	12 30.8%	1 2.6%	26 100%	-	26 100.0%	-	26 100%	-	25 96.2%	1 3.8%	26 100%	-	-	26 100.0%
カ 利用時間帯・使用所要時間	39	27 69.2%	11 28.2%	-	2 5.1%	1 2.6%	36 100%	-	36 100.0%	-	36 100%	-	35 97.2%	1 2.8%	36 100%	-	-	36 100.0%
キ 機器操作習得状況	39	24 61.5%	8 20.5%	7 17.9%	5 12.8%	1 2.6%	34 100%	-	34 100.0%	-	34 100%	3 8.8%	30 88.2%	1 2.9%	34 100%	-	-	34 100.0%
ク 吊り具の使用方法習得状況	39	7 17.9%	4 10.3%	2 5.1%	28 71.8%	1 2.6%	10 100%	-	10 100.0%	-	10 100%	1 10.0%	9 90.0%	-	10 100%	-	-	10 100.0%
ケ 吊り具の適合状況	39	7 17.9%	4 10.3%	2 5.1%	28 71.8%	1 2.6%	10 100%	-	10 100.0%	-	10 100%	1 10.0%	9 90.0%	-	10 100%	1 10.0%	-	9 90.0%
コ 停電時等緊急対応方法習得状況	39	17 43.6%	8 20.5%	4 10.3%	13 33.3%	1 2.6%	25 100%	-	25 100.0%	-	25 100%	5 20.0%	19 76.0%	1 4.0%	25 100%	-	-	25 100.0%
サ ※可搬型階段昇降機の場合：操作資格保有者の状況	39	3 7.7%	3 7.7%	-	31 79.5%	2 5.1%	6 100%	-	6 100.0%	-	6 100%	1 16.7%	5 83.3%	-	6 100%	-	-	6 100.0%
住環境の状況																		
ア 機器固定(金具・接続機器等)状況	39	11 28.2%	13 33.3%	7 17.9%	14 35.9%	1 2.6%	24 100%	-	24 100.0%	-	24 100%	-	23 95.8%	1 4.2%	24 100%	-	-	24 100.0%
イ 機器設置(室内スペース等)状況	39	12 30.8%	22 56.4%	5 12.8%	5 12.8%	1 2.6%	33 100%	-	33 100.0%	-	33 100%	-	33 100.0%	-	33 100%	-	-	33 100.0%
ウ リフトによる移動動線の状況	39	15 38.5%	20 51.3%	6 15.4%	5 12.8%	1 2.6%	33 100%	-	33 100.0%	-	33 100%	-	32 97.0%	1 3.0%	33 100%	-	-	33 100.0%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ  
※2:「実施方法」の無回答を含む

### ③ 利用者の状況別の対応

利用者本人の身体状況や認知機能等、モニタリング実施にあたり配慮が必要な場合が想定されるため、利用者の状況別に適合確認における対応状況を確認した。なお、適合確認の実施方法についても種目別同様に確認したが、「聴取」が多くを占める傾向は同様であるため集計表については掲載していない。

#### a) 要介護度別の対応状況

要介護度（3区分）別に適合確認の状況を見ると、変化の有無では「重度（要介護4・5）」で「有」が32.6%と多い。指導の実施有無は、介護度の変化によらず「実施」がいずれも4割を超えていた。

要介護度（4区分）別では、変化の有無は「中等度（要介護3）」「重度（要介護4・5）」で「有」が3割以上であった。指導の実施有無は、「軽度（要介護1・2）」以上の利用者について「実施」が4割を超える結果であった。

上記より、要介護3以上の利用者については、使用状況等の変化が発生しやすく、要介護1以上の利用者については、変化の有無によらず指導が実施されている傾向にあると推察される。

なお、本集計結果は各区分において最も利用者が多かった種目について集計しており、要支援1, 2/軽度の利用者は歩行器、中等度/中度以上の利用者は特殊寝台（付属品含）を対象としているため、福祉用具の操作者・利用目的が異なることに留意する必要がある。

図表 57 要介護度（3区分）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
軽度(要支援1・2、要介護1)	359	94	262	3	359	144	197	18	359	65	17	277
	100%	26.2%	73.0%	0.8%	100%	40.1%	54.9%	5.0%	100%	18.1%	4.7%	77.2%
中等度(要介護2・3)	286	85	198	3	286	123	148	15	286	47	7	232
	100%	29.7%	69.2%	1.0%	100%	43.0%	51.7%	5.2%	100%	16.4%	2.4%	81.1%
重度(要介護4・5)	181	59	122	-	181	81	94	6	181	30	8	143
	100%	32.6%	67.4%	-	100%	44.8%	51.9%	3.3%	100%	16.6%	4.4%	79.0%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計

軽度:歩行器、中等度/重度:特殊寝台(付属品含)

図表 58 要介護度（4区分）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
要支援1,2	222 100%	57 25.7%	164 73.9%	1 0.5%	222 100%	84 37.8%	125 56.3%	13 5.9%	222 100%	39 17.6%	8 3.6%	175 78.8%
軽度(要介護1・2)	268 100%	76 28.4%	190 70.9%	2 0.7%	268 100%	112 41.8%	140 52.2%	16 6.0%	268 100%	47 17.5%	12 4.5%	209 78.0%
中度(要介護3)	123 100%	41 33.3%	81 65.9%	1 0.8%	123 100%	50 40.7%	67 54.5%	6 4.9%	123 100%	24 19.5%	5 4.1%	94 76.4%
重度(要介護4・5)	181 100%	59 32.6%	122 67.4%	0 0.0%	181 100%	81 44.8%	94 51.9%	6 3.3%	181 100%	30 16.6%	8 4.4%	143 79.0%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計

要支援1,2/軽度:歩行器、中度/重度:特殊寝台(付属品含)

b) 認知症の日常生活自立度別の対応状況

認知症の日常生活自立度別に適合確認の状況を見ると、変化の有無では「Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M」で「有」が37.3%であり、指導の実施有無でも「実施」が53.7%であった。

図表 59 認知症の日常生活自立度（4区分）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
自立	294 100%	72 24.5%	218 74.1%	4 1.4%	294 100%	101 34.4%	177 60.2%	16 5.4%	294 100%	43 14.6%	8 2.7%	243 82.7%
I	109 100%	30 27.5%	79 72.5%	0 0.0%	109 100%	39 35.8%	65 59.6%	5 4.6%	109 100%	19 17.4%	9 8.3%	81 74.3%
Ⅱa・Ⅱb	81 100%	24 29.6%	57 70.4%	0 0.0%	81 100%	38 46.9%	38 46.9%	5 6.2%	81 100%	11 13.6%	4 4.9%	66 81.5%
Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M	67 100%	25 37.3%	41 61.2%	1 1.5%	67 100%	36 53.7%	31 46.3%	0 0.0%	67 100%	14 20.9%	4 6.0%	49 73.1%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計

自立・I:歩行器、Ⅱa・Ⅱb:手すり(寝室・居室・廊下)、  
Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M:特殊寝台(付属品含)

### c) 身体状況・ADL 別の対応状況

身体状況・ADL 別に適合確認の状況を確認した。

移乗については、「見守り等」「一部介助」「全介助」では変化「有」が3割以上と多く、指導の実施有無についても「実施」という回答が4割以上であった。また、「一部介助」では適合調整で「再調整実施」が21.5%と他よりも多い結果であった。

屋内歩行については、「一部介助」で変化の有無で「有」が47.1%と多く、指導の実施有無も「実施」が55.2%、適合調整で「再調整実施」が21.8%という結果であった。

屋外歩行についても、「一部介助」の利用者については、屋内歩行と同様の結果であったが、「全介助」の利用者についても変化の有無で「有」が31.7%、指導の実施有無で「実施」が42.3%、適合調整で「再調整実施」が18.5%と多い結果であった。

移動については、「一部介助」で屋内歩行、屋外歩行と同様の傾向であった。

図表 60 身体状況・ADL (移乗) の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無				適合調整			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
介助されていない	391	92	296	3	391	148	223	20	391	60	20	311
	100%	23.5%	75.7%	0.8%	100%	37.9%	57.0%	5.1%	100%	15.3%	5.1%	79.5%
見守り等	139	44	95	-	139	59	71	9	139	24	4	111
	100%	31.7%	68.3%	-	100%	42.4%	51.1%	6.5%	100%	17.3%	2.9%	79.9%
一部介助	144	61	82	1	144	69	68	7	144	31	6	107
	100%	42.4%	56.9%	0.7%	100%	47.9%	47.2%	4.9%	100%	21.5%	4.2%	74.3%
全介助	92	29	63	-	92	42	48	2	92	11	6	75
	100%	31.5%	68.5%	-	100%	45.7%	52.2%	2.2%	100%	12.0%	6.5%	81.5%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 介助されていない/見守り等:歩行器、一部介助:車いす(付属品含)  
 全介助:特殊寝台(付属品含)

図表 61 身体状況・ADL（屋内歩行）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
介助されていない	92 100%	12 13.0%	78 84.8%	2 2.2%	92 100%	29 31.5%	59 64.1%	4 4.3%	92 100%	13 14.1%	3 3.3%	76 82.6%
見守り等	469 100%	132 28.1%	334 71.2%	3 0.6%	469 100%	190 40.5%	248 52.9%	31 6.6%	469 100%	82 17.5%	16 3.4%	371 79.1%
一部介助	87 100%	41 47.1%	45 51.7%	1 1.1%	87 100%	48 55.2%	34 39.1%	5 5.7%	87 100%	19 21.8%	5 5.7%	63 72.4%
全介助	146 100%	39 26.7%	107 73.3%	-	146 100%	61 41.8%	82 56.2%	3 2.1%	146 100%	24 16.4%	5 3.4%	117 80.1%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計

介助されていない:手すり(寝室・居室・廊下)、見守り等:歩行器、  
一部介助:車いす(付属品含)、全介助:特殊寝台(付属品含)

図表 62 身体状況・ADL（屋外歩行）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
介助されていない	51 100%	4 7.8%	45 88.2%	2 3.9%	51 100%	12 23.5%	36 70.6%	3 5.9%	51 100%	5 9.8%	3 5.9%	43 84.3%
見守り等	446 100%	115 25.8%	329 73.8%	2 0.4%	446 100%	177 39.7%	244 54.7%	25 5.6%	446 100%	73 16.4%	18 4.0%	355 79.6%
一部介助	127 100%	50 39.4%	77 60.6%	-	127 100%	62 48.8%	58 45.7%	7 5.5%	127 100%	26 20.5%	5 3.9%	96 75.6%
全介助	227 100%	72 31.7%	155 68.3%	-	227 100%	96 42.3%	124 54.6%	7 3.1%	227 100%	42 18.5%	9 4.0%	176 77.5%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計

介助されていない:手すり(寝室・居室・廊下)、見守り等:歩行器、  
一部介助:特殊寝台(付属品含)、全介助:車いす(付属品含)

図表 63 身体状況・ADL（移動）の適合確認・対応状況

	変化の有無				指導の実施有無 (不要の場合は「未実施」)				適合調整 (適合していた場合は「無回答」)			
	調査数 (※1)	有	無	無回答 (※2)	調査数 (※1)	実施	未実施	無回答 (※2)	調査数 (※1)	再調整実施	他職種に相談	無回答 (※2)
介助されていない	293 100%	68 23.2%	223 76.1%	2 0.7%	293 100%	109 37.2%	172 58.7%	12 4.1%	293 100%	44 15.0%	15 5.1%	234 79.9%
見守り等	192 100%	54 28.1%	137 71.4%	1 0.5%	192 100%	83 43.2%	96 50.0%	13 6.8%	192 100%	34 17.7%	9 4.7%	149 77.6%
一部介助	166 100%	71 42.8%	95 57.2%	-	166 100%	69 41.6%	86 51.8%	11 6.6%	166 100%	39 23.5%	5 3.0%	122 73.5%
全介助	119 100%	33 27.7%	86 72.3%	-	119 100%	55 46.2%	62 52.1%	2 1.7%	119 100%	17 14.3%	5 4.2%	97 81.5%

※1:実施方法で「聴取」「観察」「動作確認」のいずれかに回答があったもののみ

※2:「実施方法」の無回答を含む

※3:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が

多かった種目を対象に集計

介助されていない/見守り等:歩行器、一部介助:車いす(付属品含)

全介助:特殊寝台(付属品含)

#### ④ 事故、ヒヤリ・ハットの有無

##### a) 種目別の発生状況

事故の有無について、種目別に確認したがいずれの種目においても「あり」は数件だった。

ヒヤリ・ハットの有無については、「歩行器」で「あり」が10.3%と他の種目よりも多い結果であった。対応内容としては「注意喚起」が85.2%と最も多く、次いで「使用方法の再指導」49.2%であった。また、「機器の使用中止」は車いす（電動車いす）1件、特殊寝台（付属品含）1件、手すり3種各1件の5件が確認された。

図表 64 種目別 事故の有無

	調査数	あり	なし	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	3 0.7%	432 95.4%	18 4%
特殊寝台(付属品含)	524 100%	3 0.6%	515 98.3%	6 1.1%
床ずれ防止用具	95 100%	-	90 94.7%	5 5.3%
体位変換器	20 100%	-	19 95%	1 5%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	1 0.3%	363 94.5%	20 5.2%
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	4 0.7%	534 94%	30 5.3%
手すり(トイレ)	214 100%	1 0.5%	192 89.7%	21 9.8%
スロープ	138 100%	-	132 95.7%	6 4.3%
歩行器	591 100%	4 0.7%	570 96.4%	17 2.9%
歩行補助つえ	166 100%	2 1.2%	150 90.4%	14 8.4%
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	-	12 92.3%	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	1 2.6%	34 87.2%	4 10.3%

図表 65 種目別 ヒヤリ・ハットの有無と対応内容

	ヒヤリ・ハットの有無				「あり」の場合:対応内容【複数回答】					
	調査数	あり	なし	無回答	調査数	機器の使用中止	使用方法の再指導	注意喚起	その他	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	38 8.4%	379 83.7%	36 7.9%	38 100%	1 2.6%	15 39.5%	31 81.6%	4 10.5%	-
特殊寝台(付属品含)	524 100%	38 7.3%	447 85.3%	39 7.4%	38 100%	1 2.6%	10 26.3%	34 89.5%	-	-
床ずれ防止用具	95 100%	-	85 89.5%	10 10.5%	-	-	-	-	-	-
体位変換器	20 100%	-	19 95.0%	1 5.0%	-	-	-	-	-	-
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	20 5.2%	316 82.3%	48 12.5%	20 100%	1 5.0%	3 15.0%	17 85.0%	1 5.0%	-
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	34 6.0%	479 84.3%	55 9.7%	34 100%	1 2.9%	9 26.5%	28 82.4%	3 8.8%	-
手すり(トイレ)	214 100%	8 3.7%	174 81.3%	32 15.0%	8 100%	1 12.5%	1 12.5%	7 87.5%	-	-
スロープ	138 100%	5 3.6%	120 87.0%	13 9.4%	5 100%	-	2 40.0%	3 60.0%	-	-
歩行器	591 100%	61 10.3%	472 79.9%	58 9.8%	61 100%	-	30 49.2%	52 85.2%	3 4.9%	1 1.6%
歩行補助つえ	166 100%	11 6.6%	133 80.1%	22 13.3%	11 100%	-	4 36.4%	11 100%	-	-
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	-	12 92.3%	1 7.7%	-	-	-	-	-	-
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	3 7.7%	31 79.5%	5 12.8%	3 100%	-	-	3 100%	-	-

b) 利用者の状況別の発生状況

種目別で確認したとおり、全体的に事故、ヒヤリ・ハットの発生件数は少ないが、利用者の状態像等による事故、ヒヤリ・ハットの発生状況を確認した。

要介護度別でみた事故の有無は、いずれも「有」は1～2件であった。ヒヤリ・ハットの有無は、要介護度（3区分）でみると「軽度（要支援1・2、要介護1）」で「有」が10.6%、要介護度（4区分）でみると「軽度（要介護1・2）」で「有」が10.8%という結果であり、軽度者におけるヒヤリ・ハットが把握されやすいことがわかった。

図表 66 要介護度（3区分）の事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
軽度(要支援1・2、要介護1)	359 100%	1 0.3%	350 97.5%	8 2.2%	359 100%	38 10.6%	285 79.4%	36 10.0%
中等度(要介護2・3)	286 100%	1 0.3%	281 98.3%	4 1.4%	286 100%	25 8.7%	240 83.9%	21 7.3%
重度(要介護4・5)	181 100%	1 0.6%	180 99.4%	-	181 100%	11 6.1%	159 87.8%	11 6.1%

※:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
軽度:歩行器、中等度/重度:特殊寝台(付属品含)

図表 67 要介護度（4区分）の事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
要支援1,2	222 100%	-	219 98.6%	3 1.4%	222 100%	22 9.9%	182 82.0%	18 8.1%
軽度(要介護1・2)	268 100%	2 0.7%	256 95.5%	10 3.7%	268 100%	29 10.8%	210 78.4%	29 10.8%
中度(要介護3)	123 100%	-	121 98.4%	2 1.6%	123 100%	11 8.9%	105 85.4%	7 5.7%
重度(要介護4・5)	181 100%	1 0.6%	180 99.4%	-	181 100%	11 6.1%	159 87.8%	11 6.1%

※:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
要支援1,2/軽度:歩行器、中度/重度:特殊寝台(付属品含)

認知症の日常生活自立度別では、要介護度同様に「自立」、「Ⅰ」の利用者ではヒヤリ・ハットを把握できていることがわかった。

図表 68 認知症の日常生活自立度（4区分）の事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
自立	294 100%	2 0.7%	283 96.3%	9 3.1%	294 100%	26 8.8%	234 79.6%	34 11.6%
Ⅰ	109 100%	-	105 96.3%	4 3.7%	109 100%	12 11.0%	85 78.0%	12 11.0%
Ⅱa・Ⅱb	81 100%	-	77 95.1%	4 4.9%	81 100%	6 7.4%	66 81.5%	9 11.1%
Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・Ⅴ	67 100%	-	67 100.0%	-	67 100%	4 6.0%	61 91.0%	2 3.0%

※:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 自立・Ⅰ:歩行器、Ⅱa・Ⅱb:手すり(寝室・居室・廊下)、  
 Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・Ⅴ:特殊寝台(付属品含)

身体状況・ADLの状況別で見ると、移乗では「介助されていない」「見守り等」でヒヤリ・ハットの有無が「有」という利用者が1割以上という結果であった。

屋内歩行では「介助されていない」で事故「有」が10件(10.8%)であり他と比較して多い結果であった。この集計結果は「手すり(寝室・居室・廊下)」を対象に集計した結果である。一方、ヒヤリ・ハットの有無は「見守り等」で12.4%であり、これは「歩行器」の利用者を対象とした結果である。屋外歩行では「見守り等」「一部介助」でヒヤリ・ハットの有無が「有」という利用者が1割以上という結果であり、移動についても「介助されていない」「見守り等」でヒヤリ・ハットの有無が「有」という利用者が1割以上という結果であった。

上記の通り、要介護度別と同様に軽度の利用者(「介助されていない」「見守り等」)でヒヤリ・ハット「有」が確認されている。但し、いずれも「歩行器」を貸与している利用者を集計対象としたことから、種目別の結果の通り、ヒヤリ・ハットが多く確認される福祉用具であったことも、影響していると考えられる。

図表 69 身体状況・ADL別（移乗） 事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
介助されていない	391 100%	1 0.3%	379 96.9%	11 2.8%	391 100%	39 10.0%	309 79.0%	43 11.0%
見守り等	139 100%	3 2.2%	134 96.4%	2 1.4%	139 100%	20 14.4%	112 80.6%	7 5.0%
一部介助	144 100%	0 0.0%	142 98.6%	2 1.4%	144 100%	12 8.3%	122 84.7%	10 6.9%
全介助	92 100%	0 0.0%	91 98.9%	1 1.1%	92 100%	4 4.3%	81 88.0%	7 7.6%

※: 本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 介助されていない/見守り等: 歩行器、一部介助: 車いす(付属品含)  
 全介助: 特殊寝台(付属品含)

図表 70 身体状況・ADL別（屋内歩行） 事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
介助されていない	92 109%	10 10.8%	79 85.9%	11 12.0%	92 100%	2 2.2%	83 90.2%	7 7.6%
見守り等	469 21%	14 3.1%	81 17.2%	5 1.1%	469 100%	58 12.4%	366 78.0%	45 9.6%
一部介助	87 115%	8 9.6%	85 97.4%	7 8.0%	87 100%	8 9.2%	71 81.6%	8 9.2%
全介助	146 68%	4 3.0%	88 60.3%	8 5.2%	146 100%	9 6.2%	126 86.3%	11 7.5%

※: 本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 介助されていない: 手すり(寝室・居室・廊下)、見守り等: 歩行器、  
 一部介助: 車いす(付属品含)、全介助: 特殊寝台(付属品含)

図表 71 身体状況・ADL 別（屋外歩行） 事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
介助されていない	51 100%	-	45 88.2%	6 11.8%	51 100%	-	48 94.1%	3 5.9%
見守り等	446 100%	-	436 97.8%	10 2.2%	446 100%	51 11.4%	352 78.9%	43 9.6%
一部介助	127 100%	2 1.6%	124 97.6%	1 0.8%	127 100%	15 11.8%	98 77.2%	14 11.0%
全介助	227 100%	1 0.4%	224 98.7%	2 0.9%	227 100%	14 6.2%	201 88.5%	12 5.3%

※: 本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 介助されていない: 手すり(寝室・居室・廊下)、見守り等: 歩行器、  
 一部介助: 特殊寝台(付属品含)、全介助: 車いす(付属品含)

図表 72 身体状況・ADL 別（移動） 事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※)	有	無	無回答	調査数 (※)	有	無	無回答
介助されていない	293 100%	-	286 97.6%	7 2.4%	293 100%	35 11.9%	226 77.1%	32 10.9%
見守り等	192 99%	-	186 96.9%	5 2.6%	192 100%	21 10.9%	156 81.3%	15 7.8%
一部介助	166 100%	-	162 97.6%	4 2.4%	166 100%	10 6.0%	146 88.0%	10 6.0%
全介助	119 100%	-	118 99.2%	1 0.8%	119 100%	6 5.0%	106 89.1%	7 5.9%

※: 本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の状態像別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 介助されていない/見守り等: 歩行器、一部介助: 車いす(付属品含)  
 全介助: 特殊寝台(付属品含)

c) 世帯構成別の発生状況

本人以外の介助者等が近くにいる生活環境の方が、事故、ヒヤリ・ハットの発見や福祉用具専門相談員への情報共有等が多いのではないかと推察し、世帯構成別に確認を行ったが、違いは見られなかった。

図表 73 世帯構成別 事故、ヒヤリ・ハットの有無

	事故の有無				ヒヤリ・ハットの有無			
	調査数 (※ )	有	無	無回答	調査数 (※ )	有	無	無回答
独居	204 100%	1 0.5%	196 96.1%	7 3.4%	204 100%	19 9.3%	164 80.4%	21 10.3%
配偶者との2人暮らし	173 100%	1 0.6%	172 99.4%	-	173 100.0%	11 6.4%	150 86.7%	12 6.9%
子と同居	200 100%	1 0.5%	188 94.0%	11 5.5%	200 100.0%	11 5.5%	169 84.5%	20 10.0%

※:本設問は種目別に回答を得ているため、利用者の世帯構成別に最も貸与件数が多かった種目を対象に集計  
 独居:歩行器、配偶者と2人暮らし:特殊寝台(付属品含)  
 子と同居:手すり(寝室・居室・廊下)

## ⑤ 利用目標・適合確認の結果

利用目標の達成状況の確認方法として、いずれの種目でも「聴取」での確認を実施しつつ、達成度の更なる見極めのために、種目の性質に応じて観察と動作確認を組みわせてその達成度を判断しようとしていることが分かった。また、利用目標の達成状況は「達成」がいずれの種目でも約9割であり、「一部達成」「未達成」は1割未満という結果であった。

適合確認の結果、いずれの種目でも「継続」が約9割という結果であった。その理由について最も重視したものの1つについて回答を得たところ、利用者の移動に使用される「車いす（付属品含）」「スロープ」「歩行器」「歩行補助つえ」「移動用リフト（つり具の部分を含む）」については、「生活範囲の維持・拡大ができているため利用継続」という回答が最も多く、要介護度の高い利用者の使用が多い「特殊寝台（付属品含）」「床ずれ防止用具」「体位変換器」については、「ADLの維持・向上ができているため利用継続」が最も多い結果であった。介助者が操作する「認知症徘徊感知機器」については「介護負担軽減に寄与しているため利用継続」が最も多い。また、「手すり」については、設置場所・用途により回答がことなり、「手すり（玄関上がりかまち・玄関）」では「生活範囲の維持・拡大ができているため利用継続」が最も多いが、「手すり（寝室・居室・廊下）」「手すり（トイレ）」では「ADLの維持・向上ができているため利用継続」が最も多い結果であった。

図表 74 種目別 利用目標の達成状況の確認手段・達成状況

	利用目標の確認手段					利用目標の達成状況				
	調査数	聴取	観察	動作確認	無回答	調査数	達成	一部達成	未達成	無回答
車いす(付属品含)	453	375 82.8%	113 24.9%	38 8.4%	15 3.3%	453	416 91.8%	24 5.3%	2 0.4%	11 2.4%
特殊寝台(付属品含)	524	433 82.6%	162 30.9%	56 10.7%	5 1.0%	524	493 94.1%	20 3.8%	4 0.8%	7 1.3%
床ずれ防止用具	95	73 76.8%	35 36.8%	6 6.3%	7 7.4%	95	87 91.6%	2 2.1%	-	6 6.3%
体位変換器	20	19 95.0%	2 10.0%	2 10.0%	1 5.0%	20	17 85.0%	1 5.0%	-	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	288 75.0%	93 24.2%	52 13.5%	19 4.9%	384	357 93.0%	11 2.9%	-	16 4.2%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	448 78.9%	151 26.6%	70 12.3%	25 4.4%	568	524 92.3%	20 3.5%	-	24 4.2%
手すり(トイレ)	214	160 74.8%	57 26.6%	17 7.9%	16 7.5%	214	186 86.9%	8 3.7%	2 0.9%	18 8.4%
スロープ	138	106 76.8%	54 39.1%	13 9.4%	4 2.9%	138	131 94.9%	3 2.2%	-	4 2.9%
歩行器	591	482 81.6%	158 26.7%	80 13.5%	12 2.0%	591	527 89.2%	42 7.1%	5 0.8%	17 2.9%
歩行補助つえ	166	140 84.3%	41 24.7%	15 9.0%	9 5.4%	166	139 83.7%	13 7.8%	1 0.6%	13 7.8%
認知症老人徘徊感知機器	13	11 84.6%	2 15.4%	2 15.4%	-	13	11 84.6%	1 7.7%	-	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	31 79.5%	13 33.3%	5 12.8%	1 2.6%	39	34 87.2%	1 2.6%	-	4 10.3%

図表 75 種目別 適合確認の結果

	調査数	継続	の種追加・付属品	換他種目への交	換同種目への交	一部回収	中止	無回答
車いす(付属品含)	453	414 91.4%	3 0.7%	6 1.3%	13 2.9%	1 0.2%	1 0.2%	15 3.3%
特殊寝台(付属品含)	524	485 92.6%	4 0.8%	5 1.0%	6 1.1%	5 1.0%	4 0.8%	15 2.9%
床ずれ防止用具	95	88 92.6%	-	-	-	-	-	7 7.4%
体位変換器	20	17 85.0%	-	-	-	-	-	3 15.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	356 92.7%	2 0.5%	-	1 0.3%	-	2 0.5%	23 6.0%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	518 91.2%	10 1.8%	2 0.4%	2 0.4%	5 0.9%	2 0.4%	29 5.1%
手すり(トイレ)	214	192 89.7%	-	1 0.5%	-	-	2 0.9%	19 8.9%
スロープ	138	131 94.9%	-	-	-	2 1.4%	-	5 3.6%
歩行器	591	546 92.4%	2 0.3%	7 1.2%	12 2%	1 0.2%	2 0.3%	21 3.6%
歩行補助つえ	166	147 88.6%	2 1.2%	1 0.6%	3 1.8%	-	1 0.6%	12 7.2%
認知症老人徘徊感知機器	13	12 92.3%	-	-	-	-	-	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	35 89.7%	-	-	-	-	-	4 10.3%

図表 76 種目別 「継続」と判断した理由【最も重視したもの1つ】

	調査数	てADLの維持・向上が できるため利用継続	生活範囲の維持・拡大が できるため利用継続	介護負担軽減に寄与して いるため利用継続	状態変化を見据えた利用 継続	再調整を行い利用継続	操作習得までの利用継続	無回答
車いす(付属品含)	414 100%	80 19.3%	212 51.2%	101 24.4%	10 2.4%	-	-	11 2.7%
特殊寝台(付属品含)	485 100%	256 52.8%	65 13.4%	129 26.6%	13 2.7%	1 0.2%	-	21 4.3%
床ずれ防止用具	88 100%	48 54.5%	2 2.3%	11 12.5%	26 29.5%	-	-	1 1.1%
体位変換器	17 100%	7 41.2%	-	7 41.2%	2 11.8%	-	-	1 5.9%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	356 100%	114 32.0%	191 53.7%	25 7.0%	8 2.2%	-	-	18 5.1%
手すり(寝室・居室・廊下)	518 100%	301 58.1%	153 29.5%	40 7.7%	10 1.9%	-	-	14 2.7%
手すり(トイレ)	192 100%	119 62.0%	38 19.8%	22 11.5%	8 4.2%	1 0.5%	-	4 2.1%
スロープ	131 100%	27 20.6%	82 62.6%	13 9.9%	3 2.3%	-	-	6 4.6%
歩行器	546 100%	208 38.1%	290 53.1%	18 3.3%	19 3.5%	1 0.2%	-	10 1.8%
歩行補助つえ	147 100%	64 43.5%	68 46.3%	3 2.0%	9 6.1%	1 0.7%	-	2 1.4%
認知症老人徘徊感知機器	12 100%	1 8.3%	1 8.3%	10 83.3%	-	-	-	-
移動用リフト(つり具の部分を含む)	35 100%	11 31.4%	13 37.1%	10 28.6%	1 2.9%	-	-	-

モニタリング結果の報告・説明については、介助者が操作することが想定される「体位変換器」「認知症老人徘徊感知機器」等については「介助者へ口頭で説明」が多く、利用者自身で操作・活用する「歩行器」「歩行補助つえ」等については「本人へ口頭で説明」が多い結果であった。

図表 77 種目別 モニタリング結果の報告・説明【複数回答】

	調査数	本人へ書面交付	本人へ口頭で説明	介助者へ書面交付	介助者へ口頭で説明	無回答
車いす(付属品含)	453	33 7.3%	264 58.3%	41 9.1%	294 64.9%	15 3.3%
特殊寝台(付属品含)	524	40 7.6%	325 62.0%	56 10.7%	344 65.6%	15 2.9%
床ずれ防止用具	95	2 2.1%	40 42.1%	15 15.8%	67 70.5%	6 6.3%
体位変換器	20	-	5 25.0%	4 20.0%	18 90.0%	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	38 9.9%	256 66.7%	28 7.3%	213 55.5%	19 4.9%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	66 11.6%	377 66.4%	48 8.5%	295 51.9%	31 5.5%
手すり(トイレ)	214	12 5.6%	132 61.7%	19 8.9%	114 53.3%	20 9.3%
スロープ	138	8 5.8%	82 59.4%	11 8.0%	96 69.6%	7 5.1%
歩行器	591	70 11.8%	445 75.3%	32 5.4%	272 46.0%	25 4.2%
歩行補助つえ	166	22 13.3%	118 71.1%	4 2.4%	81 48.8%	14 8.4%
認知症老人徘徊感知機器	13	-	4 30.8%	3 23.1%	10 76.9%	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	2 5.1%	24 61.5%	2 5.1%	26 66.7%	4 10.3%

⑥ 訪問時のメンテナンスに関する実施内容

a) メンテナンスに関する機器の状態把握

種目別に機器の状態把握の方法を確認したところ、福祉用具専門相談員が自ら実施する「訪問時の点検」とともに、主に介助者が操作する「体位変換器」「床ずれ防止用具」等では「介助者に聴取」が多く、利用者本人が操作・使用する「歩行器」「歩行補助つえ」では「本人に聴取」が多い結果であった。

図表 78 種目別 機器の状態把握【複数回答】

	調査数	本人に聴取	介助者に聴取	他職種に聴取	訪問時の点検	その他	無回答
車いす(付属品含)	453	230 50.8%	297 65.6%	28 6.2%	280 61.8%	1 0.2%	11 2.4%
特殊寝台(付属品含)	524	292 55.7%	329 62.8%	27 5.2%	329 62.8%	1 0.2%	9 1.7%
床ずれ防止用具	95	35 36.8%	69 72.6%	3 3.2%	53 55.8%	-	6 6.3%
体位変換器	20	6 30.0%	15 75.0%	1 5.0%	9 45.0%	1 5.0%	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	238 62.0%	198 51.6%	16 4.2%	227 59.1%	2 0.5%	16 4.2%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	371 65.3%	272 47.9%	28 4.9%	344 60.6%	-	24 4.2%
手すり(トイレ)	214	116 54.2%	120 56.1%	7 3.3%	127 59.3%	-	18 8.4%
スロープ	138	57 41.3%	81 58.7%	4 2.9%	94 68.1%	4 2.9%	5 3.6%
歩行器	591	430 72.8%	240 40.6%	26 4.4%	371 62.8%	1 0.2%	17 2.9%
歩行補助つえ	166	118 71.1%	73 44.0%	9 5.4%	97 58.4%	-	12 7.2%
認知症老人徘徊感知機器	13	2 15.4%	10 76.9%	2 15.4%	6 46.2%	-	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	21 53.8%	21 53.8%	2 5.1%	24 61.5%	1 2.6%	4 10.3%

b) 機器の故障・不備への対応

種目別に機器の故障・不備への対応について確認したところ、いずれの種目も「故障なし」の回答がもっとも多い結果であった。「車いす（付属品含）」については、「現地修理を実施」が11.9%であり、他の種目より多い結果であった。

図表 79 種目別 機器の故障・不備への対応

	調査数	現地修理を実施	故障交換	故障なし	その他	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	54 11.9%	26 5.7%	344 75.9%	15 3.3%	14 3.1%
特殊寝台(付属品含)	524 100%	12 2.3%	18 3.4%	462 88.2%	20 3.8%	12 2.3%
床ずれ防止用具	95 100%	1 1.1%	6 6.3%	80 84.2%	2 2.1%	6 6.3%
体位変換器	20 100%	-	-	18 90.0%	-	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	15 3.9%	5 1.3%	340 88.5%	7 1.8%	17 4.4%
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	21 3.7%	9 1.6%	503 88.6%	7 1.2%	28 4.9%
手すり(トイレ)	214 100%	5 2.3%	2 0.9%	183 85.5%	4 1.9%	20 9.3%
スロープ	138 100%	-	1 0.7%	90 65.2%	39 28.3%	8 5.8%
歩行器	591 100%	33 5.6%	45 7.6%	473 80.0%	23 3.9%	17 2.9%
歩行補助つえ	166 100%	6 3.6%	14 8.4%	124 74.7%	9 5.4%	13 7.8%
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	1 7.7%	-	11 84.6%	-	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	-	2 5.1%	30 76.9%	2 5.1%	5 12.8%

c) メンテナンス結果の報告・説明

種目別にメンテナンス結果の報告・説明について確認したところ、前述の図表  
77 種目別 モニタリング結果の報告・説明【複数回答】と同様の結果であった。

図表 80 種目別 メンテナンス結果の報告・説明【複数回答】

	調査数	本人へ書面交付	本人へ口頭で説明	介助者へ書面交付	介助者へ口頭で説明	無回答
車いす(付属品含)	453	90 19.9%	217 47.9%	135 29.8%	240 53.0%	12 2.6%
特殊寝台(付属品含)	524	108 20.6%	268 51.1%	154 29.4%	282 53.8%	9 1.7%
床ずれ防止用具	95	7 7.4%	32 33.7%	33 34.7%	55 57.9%	6 6.3%
体位変換器	20	1 5.0%	4 20.0%	5 25.0%	17 85.0%	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384	88 22.9%	212 55.2%	85 22.1%	169 44.0%	16 4.2%
手すり(寝室・居室・廊下)	568	133 23.4%	315 55.5%	126 22.2%	251 44.2%	24 4.2%
手すり(トイレ)	214	51 23.8%	111 51.9%	50 23.4%	95 44.4%	18 8.4%
スロープ	138	24 17.4%	69 50.0%	39 28.3%	77 55.8%	5 3.6%
歩行器	591	190 32.1%	342 57.9%	109 18.4%	216 36.5%	17 2.9%
歩行補助つえ	166	51 30.7%	100 60.2%	41 24.7%	53 31.9%	12 7.2%
認知症老人徘徊感知機器	13	1 7.7%	3 23.1%	3 23.1%	9 69.2%	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39	9 23.1%	17 43.6%	9 23.1%	19 48.7%	4 10.3%

d) 機器の清拭

種目別に機器の清拭を行ったか確認したところ、「実施していない」という回答の方が多い結果であったが、「歩行器」「移動用リフト（つり具の部分を含む）」については、「実施した」の回答の方が多い結果であった。

図表 81 種目別 機器の清拭の実施状況

	調査数	実施した	実施していない	無回答
車いす(付属品含)	453 100%	206 45.5%	235 51.9%	12 2.6%
特殊寝台(付属品含)	524 100%	215 41.0%	297 56.7%	12 2.3%
床ずれ防止用具	95 100%	10 10.5%	79 83.2%	6 6.3%
体位変換器	20 100%	3 15.0%	15 75.0%	2 10.0%
手すり(玄関上がりかまち・玄関外)	384 100%	155 40.4%	212 55.2%	17 4.4%
手すり(寝室・居室・廊下)	568 100%	223 39.3%	318 56.0%	27 4.8%
手すり(トイレ)	214 100%	82 38.3%	114 53.3%	18 8.4%
スロープ	138 100%	41 29.7%	90 65.2%	7 5.1%
歩行器	591 100%	295 49.9%	279 47.2%	17 2.9%
歩行補助つえ	166 100%	60 36.1%	93 56.0%	13 7.8%
認知症老人徘徊感知機器	13 100%	3 23.1%	9 69.2%	1 7.7%
移動用リフト(つり具の部分を含む)	39 100%	19 48.7%	16 41.0%	4 10.3%

## (6) 訪問後に実施した内容

訪問後、事業所内で実施した内容について、モニタリング、メンテナンス、その他に区分し、それぞれの実施状況及び所要時間について確認した。

モニタリングについては「モニタリング（メンテナンス含む）記録の作成」で「実施した」が94.7%という結果であった。「適合評価に基づくサービス変更の検討」は「実施した」43.6%、「実施していない」54.3%と半数ずつの結果であったが、本調査の対象利用者の適合確認等の実施状況から、状態変化があまりなく、再調整等の必要のないケースが多かったことによる結果であると推察される。また、「その他」の自由記述では「歩行器等の導入を検討」「販売品の商品手配」「家具等の配置の見直し」「動画撮影による歩行診断結果をご本人へ書面提出」という回答があった。所要時間については、記録作成を行っているため、「10～20分未満」が56.6%と最も多い結果であった。

メンテナンスに関する実施内容については、いずれも「実施していない」という回答が多くを占めた。本調査においては故障・不備等の対応が必要だったケースが少なかったためと考えられ、所要時間についても「0分」が44.0%という結果であった。「その他」の自由記述をみると「故障交換の実施」「同一商品への交換」「マット交換処理」「機器点検結果を踏まえた改善対策品の提案記録」という回答があった。

事業所内外での情報共有について、「製造メーカー・委託先（レンタル卸等）への情報共有」は「実施していない」が94.0%という結果であり、これは上記のとおり故障・不備等の対応が必要だったケースが少なかったためと考えられる。一方、「管理者等への報告・事業所内での情報共有」は「実施した」45.7%、「実施していない」51.4%と半数ずつに対応が分かれた。これもモニタリングと同様、利用者の状態変化等が少なく、報告や情報共有の必要がないと判断されたものと推測される。所要時間は「10分未満」が最も多く39.2%という結果であった。「その他」の自由記述では、「ベッド位置変更の必要性について協議」「ケアマネ・社内で、ベッドサイドレールの使用状況、必要数の連絡」「モニタリング担当の為営業へ伝達・報告」という回答があった。

図表 82 訪問後、事業所内で実施した内容

		調査数	実施した	実施していない	無回答
モニタリング	モニタリング(メンテナンス含む)記録の作成	1483 100%	1404 94.7%	52 3.5%	27 1.8%
	適合評価に基づくサービス変更の検討	1483 100%	647 43.6%	805 54.3%	31 2.1%
	その他	1483 100%	35 2.4%	1211 81.7%	237 16.0%
メンテナンス	故障・不備の原因把握	1483 100%	278 18.7%	1108 74.7%	97 6.5%
	故障・不備への対応(修理を実施)	1483 100%	142 9.6%	1240 83.6%	101 6.8%
	故障・不備への対応(社内担当部署へ依頼)	1483 100%	151 10.2%	1233 83.1%	99 6.7%
	故障・不備への対応(メーカーへ依頼)	1483 100%	31 2.1%	1350 91.0%	102 6.9%
	その他	1483 100%	35 2.4%	1223 82.5%	225 15.2%
情報共有	製造メーカー・委託先(レンタル卸等)への情報共有	1483 100%	42 2.8%	1394 94.0%	47 3.2%
	管理者等への報告・事業所内での情報共有	1483 100%	678 45.7%	762 51.4%	43 2.9%
	その他	1483 100%	50 3.4%	1248 84.2%	185 12.5%

図表 83 訪問後、事業所内で実施した内容 (1件あたりの所要時間)

	調査数	0分	10分未満	10分〜20分未満	20分〜30分未満	30分〜40分未満	40分〜50分未満	50分〜60分未満	60分以上	無回答
モニタリング所要時間	1483 100%	25 1.7%	162 10.9%	840 56.6%	289 19.5%	105 7.1%	21 1.4%	8 0.5%	3 0.2%	30 2.0%
メンテナンス所要時間	1483 100%	652 44.0%	198 13.4%	347 23.4%	72 4.9%	26 1.8%	6 0.4%	-	6 0.4%	176 11.9%
情報共有所要時間	1483 100%	435 29.3%	581 39.2%	324 21.8%	17 1.1%	11 0.7%	2 0.1%	-	-	113 7.6%

(7) 他職種との連携状況

訪問結果の他職種への報告・情報共有（予定含む）について、介護支援専門員については「実施した（する）」が92.6%であったが、他の介護サービスについては「実施しない」が90.2%という結果であった。報告・情報共有を「実施した（する）」と回答した場合、その報告手段は、介護支援専門員については「書面」が89.6%と多く、他の介護サービスは「口頭」が75.5%という結果であった。

また、それぞれ重点報告を行った項目について、上位3つまでの回答を得たところ、介護支援専門員については多い順に「福祉用具の使用状況」（80.3%）、「用具の点検結果」（55.7%）、「身体状況の変化」（43.2%）であった。他の介護サービスについては、介護支援専門員への報告と同様に「福祉用具の使用状況」（66.0%）が最も多かったが、次いで「身体状況の変化」（51.9%）という結果であった。

図表 84 他職種への報告・情報共有

	調査数	実施した（する）	実施しない	無回答
介護支援専門員	1483	1373 92.6%	81 5.5%	29 2.0%
他の介護サービス	1483	106 7.1%	1337 90.2%	40 2.7%

図表 85 報告手段【複数回答】

	調査数	書面	口頭	無回答
介護支援専門員	1373	1230 89.6%	392 28.6%	11 0.8%
他の介護サービス	106	38 35.8%	80 75.5%	11 0.8%

図表 86 重点報告を行った項目（上位3つまで）【複数回答】

	調査数	身体状況の変化	生活状況の変化	福祉用具の使用	達成度	ケアプラン目標	利用者・家族の意向	貸与サービスの必要性	危険個所の報告	用具の点検結果	他職種からの情報	無回答
介護支援専門員	1373	593 43.2%	190 13.8%	1102 80.3%	377 27.5%	329 24.0%	142 10.3%	87 6.3%	765 55.7%	10 0.7%	95 6.9%	
他の介護サービス	106	55 51.9%	28 26.4%	70 66.0%	11 10.4%	30 28.3%	12 11.3%	14 13.2%	30 28.3%	11 10.4%	7 6.6%	

## (8) 販売対象商品への対応

現在の介護保険制度において、特定福祉用具販売により利用者が購入した福祉用具についてのモニタリング、メンテナンスの義務はないところである。しかし、福祉用具貸与事業所では特定福祉用具販売についても指定を受け、サービス提供を行っている事業所も多く存在することから、現在の対応状況について確認を行った。

調査対象利用者の特定福祉用具販売の利用状況は、多い順に「入浴補助用具」29.3%、「腰掛便座」13.1%という結果だった。「入浴補助用具」は「不明」も11.5%であった。福祉用具貸与の種目において浴室で使用する用具は少なく、特殊寝台の側に置いてあるような「腰掛便座」とは異なり、福祉用具専門相談員が目にする機会が少ないためではないかと推察する。

特定福祉用具販売の商品について、「利用中」と回答したものについて、モニタリング訪問時の対応状況についても回答を得た。回答数の多い「腰掛便座」「入浴補助用具」をみると、使用状況の確認・メンテナンスにおいて、自主的もしくは依頼をもとに実施したとの回答は、貸与サービスの訪問時の一環として行われていることに留意する必要がある。一方、使用状況の確認、メンテナンスの実施、清拭について、いずれの商品についても「本人・介助者から依頼があり実施した」という回答は少数だった。

図表 87 特定福祉用具販売に関する利用状況

	調査数	利用中	利用状況		利用なし	不明	無回答
			利用 自中 社 の で う 販 売 、	利用 購中 入の 先 う 不 明、			
腰掛便座	1483 100%	194 13.1%	163 11%	26 1.8%	1103 74.4%	109 7.3%	77 5.2%
自動排泄処理装置の交換可能部	1483 100%	2 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	1317 88.8%	74 5%	90 6.1%
入浴補助用具	1483 100%	435 29.3%	387 26.1%	41 2.8%	812 54.8%	170 11.5%	66 4.5%
簡易浴槽	1483 100%	4 0.3%	1 0.1%	2 0.1%	1302 87.8%	78 5.3%	99 6.7%
移動用リフトのつり具の部分	1483 100%	10 0.7%	7 0.5%	2 0.1%	1300 87.7%	73 4.9%	100 6.7%

図表 88 利用中の特定福祉用具販売に関する対応状況

	使用状況の確認					メンテナンスの実施					商品の清拭				
	調査数	実施しなかった	頼本人・介助者から実施した	自主的に実施した	無回答	調査数	実施しなかった	頼本人・介助者から実施した	自主的に実施した	無回答	調査数	実施しなかった	頼本人・介助者から実施した	自主的に実施した	無回答
腰掛便座	194 100%	72 37.1%	12 6.2%	109 56.2%	1 0.5%	194 100%	147 75.8%	9 4.6%	37 19.1%	1 0.5%	194 100%	180 92.8%	2 1.0%	11 5.7%	1 0.5%
自動排泄処理装置の交換可能部	2 100%	1 50.0%	-	1 50.0%	-	2 100%	1 50.0%	-	1 50.0%	-	2 100%	1 50.0%	-	1 50.0%	-
入浴補助用具	435 100%	201 46.2%	18 4.1%	213 49.0%	3 0.7%	435 100%	337 77.5%	12 2.8%	84 19.3%	2 0.5%	435 100%	392 90.1%	2 0.5%	38 8.7%	3 0.7%
簡易浴槽	4 100%	1 25.0%	-	2 0.3%	1 25.0%	4 100%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	4 100%	2 50.0%	1 25.0%	-	1 25.0%
移動用リフトのつり具の部分	10 100%	5 50.0%	-	4 40.0%	1 10.0%	10 100%	5 50.0%	-	4 40.0%	1 10.0%	10 100%	7 70.0%	-	2 20.0%	1 10.0%

## (9) 専門性を発揮できたと思うポイント

調査対象となったモニタリング実施において、福祉用具専門相談員として専門性を発揮できたと思うポイントを自由記述にて回答を得た。主な回答は以下の通り。  
なお、その他の自由記述は参考資料を参照いただきたい。

図表 89 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：車いす（付属品含）①

<ul style="list-style-type: none"><li>床ずれが良くならない状況を伺い、日中の過ごし方や車椅子での座位姿勢を確認。元々車いす付属品のクッションを利用していたが、より体圧分散効果の期待できる機種への見直しを提案した。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>前任者から担当変更を行い初めてお会いさせて頂いたご利用者様でした。訪問直後より車椅子の調整とご本人様の体格に若干の違和感があり前座高調整肘掛高調整ブレーキ調整等をさせて頂き、ご本人様奥様ともにご納得頂きました。また、自宅内外共に車椅子1台にて移動されていましたが、屋内用屋外用分けて使用したいとの意向がモニタリング訪問前に頂いていました。電話での対応でしたが、使用する目的等細かに伺い要望に適合するであろう機種を2台準備し提案（奥様が主介助者であり、車への車載等考慮すると軽量タイプである必要性があり、屋外ではご本人様ではなく奥様が操作をされるとの事から介助式）を行った所、1台を非常に気に入って頂きました。奥様の外出に要する車載の負担軽減やご本人様も奥様へ対する負担をかけるのではないかとという後ろめたさの軽減が図れることで外出頻度の拡大が図れるのではないかと考えています。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>今回、車いすのブレーキ（駐車）の変形が見つかり、交換となりました。現在は問題なくご利用頂けていましたが、事故につながるような事になる前に気づくことが出来て良かったです。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>身体状況はずっと変わらない利用者（片マヒ）ですが、その分電動車いすの使用頻度も変わらず高く、これがあることで今の生活が維持されています。そのため劣化も早く定期的なメンテナンスは欠かせません。前はメーカーに依頼してバッテリーを交換してもらいました。今回は前輪後輪の劣化具合の確認を依頼し、半年は安全に使用できると判断してもらいました。メンテナンスの重要さを感じる案件でした。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>電動4輪車の電圧確認、走行確認を実施。突っ張り型手摺りのテンション張り直し、特殊寝台のマットレスの定期交換を実施。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>車いす足台の左右のネジの緩み具合に差があり、はねあげの際に異和感があるとの事で不定期での点検を実施しました。直ぐに問題点を確認し、調整させて頂きましたので大きなご不便をおかけする事も無かったと思います。個品を交換する事で得られる安心感もありますが、直ぐ訪問、直ぐ対応、解決で得られる安心感も大きいものだと考えます。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>定期的に用具のメンテナンスを行うことにより安全性の確保ができた。また、モニタリングを行うことにより新たな問題点や要望の確認ができた。今回はおむつ交換が大変になったことの相談対応と自分でブレーキをかけることが大変になったとのことへの相談対応がありました。体調に応じて家の出入りの方法を変えるなど、その時その時の状態や介助者である奥様の要望や困りごとに柔軟に対応しており、レンタルの有効性が発揮されています。</li></ul>

図表 90 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：車いす（付属品含）②

<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス導入時と比べ電動車いすの運転能力が低下しておりモニタリング時にヒヤリ、ハットが見られた為サービスを中止、アシスト付歩行器を使用しご家族の見守りで外出する案を提案しました。ご本人ご家族も安心して外出できると喜んでいただきました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器の左後輪より異音発生。→抵抗器部のネジの緩みが原因であった為、正常な右側に合わせて調整し、了解を頂きました。異音とは気になるもので、それをすぐに対応出来た事は良かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問経緯は利用者からの車いす点検依頼だったが、レンタル品全て点検及び利用状況の確認を行い、希望された対応+αの対応ができ（購入したポータブルトイレの点検や再購入についての相談に回答し）、介護支援専門員へ報告、利用者ニーズを共有することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>長期ご利用いただいているご利用者様であり、慣れた福祉用具を活用されることで、安全にADLの自立や在宅生活が維持いただけておられます。ただ、これまでも病状変動にてADL変動も起こされており、実際の事例などのご紹介を通して、体調変動時のヒヤリハット（福祉用具活用時含む）についてアドバイスすることができました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>車いすの空気の補充頻度が増えたとの訴えがありました。エアバルブの劣化が原因であった為、交換いたしました。空気が入っていない状態で利用する事の危険性を話しあい、同様な事があった場合は連絡いただくようお願いいたしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>初回モニタリングであった為、利用状況をより詳しく確認することで、車いすのブレーキかけ忘れ等のヒヤリハットを確認出来た。本人、家族への注意、介護支援専門員との連携を行う事で今後の事故の防止に役立てたと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊寝台から反動を付けて立ち上がりを行っているようですが、立ち上がりやすい高さ（足裏が床に着いた状態で、臀部の位置が膝より約3cmほど高い姿勢）のお話を再度させて頂いたところ、納得された様子でしたので、今後は立ち上がりにおいての負担軽減が図られると思います。杖先ゴムの消耗が早くても、定期モニタリング等で交換を行うので、常に最適な状態で杖を利用する事ができ、転倒防止に繋がっています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の大半は昇降座椅子に座って過ごされています。車いすの移動の際は、昇降座椅子を車いすの高さに合わせ、ゆっくりと確実に行って行っていました。自宅内の移動は操作も慣れており、狭い場所での方向転換も少しずつ何度も切り返しながら行っていました。日中は一人で過ごすことが多く、意欲を損なわず自立した生活を続けるには、福祉用具の利用は必要不可欠と考えます。</li> </ul>

**図表 91 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：特殊寝台（付属品含）**

<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊寝台を清拭したときに、電源コードをサイドレール受けに巻き付けてあることに気づき、取り外した後、足元の邪魔にならないところへ移動させ、その事実をご本人様にお話ししたところ奥様が掃除のときに良かれと思って巻き付けたそうです。ベッドの高さを調整するときにコードが切れて動かなくなることを説明し、ご納得いただきました。また、移動動線上に延長コードがあり足を引っかけないようにご注意くださいとくようお話いたしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2本あるベッドサイドレールの状況を確認したところ、現在はオムツ交換時のみサイドレールを1本使用し、オムツ交換時以外は外しており、テレビ・庭が見えるように過ごされている事が今回のモニタリングで確認出来ました。定期モニタリングを行う事で介護状況・福祉用具の使用状況の変化がわかり、ご利用者様・介助者に適合した用具選定ができると思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>マットレスの交換については我々福祉用具専門相談員としての判断+使用して頂いている利用者様の気持ちやニュアンスを大切にしてい。屋外手すりに関しては住宅改修の件も改めて含めてご説明しましたが、やはり今後の身体変化に伴って邪魔になる可能性を視野に入れて工事をしないことになりました。歩行状態を改めて確認し屋外手すりの支柱に引っ掛かりそうなイメージが持てたため支柱の数が少ない同系の屋外手すりへの変更をお勧めし利用者様、ご家族様の了承を得ました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>以前に比べ起き上がりが行いにくいとお話して、動作確認を行い、介助バーの角度調整することで起き上がりが一人でスムーズに行えるようになりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器左後輪のキャスター角度が正常ではなく、現場でキャスターを外し点検をしたところ、キャスターの軸が歪んでいました。翌日に本体交換にて対応をいたしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の不具合だけでなく利用中に不便な点を聴取した（サイドレールの隙間から物が落ちてしまうこと）歩行器の使用頻度の変化から、外出頻度や他者との関わりについて聴取し、介護支援専門員に報告できた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>身体状況と移乗方法から旧ベッドの仕様ではサイドレール受けが邪魔になるのではないかと推測し確認したところ、邪魔になっていたとこのことでサイドレール受けがすっきりとしまえる新機種を紹介。変更となった。貸与していることでより機能の優れた機種への変更が可能となり、本人の自立の継続、負担軽減が図れました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>背上げ時にモーターより異音を確認。背上げモーターの交換を実施し、改善済。ご利用者様により背上げは時々使用しているとの事でしたが、ご使用方法に問題は無くモーターの故障であると判断しました。特殊寝台付属品としてテーブルを貸与していたが、レンタル開始時期に比べ、歩行安定しておりベッド上で食事をする事は無くなり、テーブルの一旦引取をご希望。営業担当から介護支援専門員へ報告済み。</li> </ul>

**図表 92 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：床ずれ防止用具**

<ul style="list-style-type: none"> <li>エアマット導入数日後の状況確認と合わせ、他用具のモニタリングを実施。従来固めの寝心地を好まれていたため、導入時は固め設定、慣れてきたら柔らかめに変更するよう介助者に説明していた。訪問時、既に柔らかめの設定に変更されており、適切な除圧ができる状況であることが確認できた。福祉用具貸与サービスにより、残存機能を活かした、起居移乗移動が行えている。</li> </ul>
---

図表 93 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：  
手すり（玄関上がりかまち・玄関外）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 突っ張り型手すりは長期利用により壁紙の剥がれが発生する可能性があるが、定期的な取り付け直しを行うことでそれが軽減できるので利用者の自宅の破損を防ぐことができる。独居の為、何かあった時に不安との訴えに対し、転倒時電話機が高いところにあると手が届かないことがあるので、万が一のことを考えて下に置いておくよう提案ができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手すり検討時片手すりでもいいのではという意見も挙がったが、ご本人の動作確認し両側手すりをお勧めした。両側で身体を指示できることにより安心感と自信につながり、手すり導入前は玄関上がり框の昇降には介助を要していたが、手すり導入後は見守りで動作自立。負担の軽減も図れている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点検の結果、玄関手すりの固定ネジ不具合を、早期に発見した事で、利用中の転倒事故を、未然に防ぐ事が出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>本人の動作を確認しながら、手すりの位置や高さを調整する事で一人で移動できるようになった。計画書の利用目標の達成状況を確認しながら評価する事で、具体的に本人や介護支援専門員への報告が出来ている。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手摺り（レンタル・住宅改修）取り付けに関するメリット、デメリットを選定する機種、取り付け場所に対して明確に伝える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮住まいの限られた環境スペースに貸与手すりを設置、転倒予防や生活範囲の拡大に繋がる。現在ご自宅改修中、完成後貸与手すりは返却予定です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あがり框を斜めから登ろうとしたら足がひっかかって転倒してしまったそう。長期間使用による慣れからの事故なので、必ず正面から手すりをつかんで上がるように気を付けていただくよう注意喚起を行いました。</li> </ul>

図表 94 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：  
手すり（寝室・居室・廊下）①

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>当初は家具横の置き型手すりが必要であったが、本人の動線の変化により必要が無くなり、屋内歩行車の利用に変わっていくアドバイスが出来た。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変形性膝関節症の診断がついており、動作時には膝痛が発生しやすい状態。これに対し、特にベッドからの起立時の身体負担軽減膝痛緩和を図るために、コの字型の置き型手すりを選定。前方に支持を作ることにより起立時の前方への重心移動が容易となり、上記の効果が高まっている。今後、加齢による筋力低下が予測され、その際には特殊寝台導入の必要性が考えられることから、現時点ではレンタルでの手すり利用が適切であると思われる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所有ベッドと手摺との間に危険な隙間が生じないように、位置を微調整しました。使用中に少しずつ位置がずれてしまうことがあるため、定期的な確認が必要と考えています。動画による歩行診断を行いました。畑仕事もされ、自立した生活をされているご利用者なので、今後も ADL 維持ができるよう、筋力維持の目安に活用頂きたいと考えています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手すり設置場所以外でふらつきが見られる危険個所があったので共有し、追加の手すりを納品し、転倒予防を図りました。</li> </ul>

図表 95 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：

手すり（寝室・居室・廊下）②

<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の身体状況では何とか所有ベッドに手すり設置で自立した動作が行えているが、体力や筋力の低下が著明であり、そろそろ電動ベッドの導入の検討の必要性をケアマネに訴えている所である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>レンタル開始当初は訪問リハが入っていたがご本人の拒否によりサービスは福祉用具のみになった。室内外の移動は自立ご家族の介助でできているが歩行状態の低下が見られたので、介護支援専門員と一緒に福祉用具を使用したりハを再開できるようお声掛け。その際に手すりや私物杖の重要性を再度ご説明した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッドから車いす、ポータブルトイレへの移乗動作が不安定になっていたため、手すりの機種変更に対するご提案を行い、早急にデモ納品を行いました。実際に動作を行ってもらい、今までより安全な移乗動作が行えておりましたので、手すり追加導入に繋がりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>手すりに関しては、ベッド⇄浴室の移動動線上に設置している。住宅改修では出来ない空間に据え置き型手すりを連結する等、動線が途切れない様に工夫した。設置により、移動が一部介助から見守りレベルへ変化した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>手すりを利用することで、寝起きや外出を転倒することなく一人で行え、活動量の維持や意欲的な生活が送れています。退院時に一時期 ADL の低下が見られトイレの手すりを貸与していましたが、必要なくなり回収。福祉用具専門相談員としての専門性を発揮し、身体状況や生活状況に合わせて福祉用具の見直しや環境整備を行えた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人様は意思意欲面が高い一方で過信による無理な動作や油断が見受けられ、また、関節疾患による摺り足歩行が見られるなど、不意な転倒リスクには注意が必要でした。また、ご自宅内はバリアフリーされておりますが、広い空間などもございます。事故の起きやすい場所や過去の事例等をお伝えすることで、ご本人様に改めて転倒予防の意識を高めていただくことができました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>息子様宅に同居されており、ご自身のお身体の状態を〈家族に迷惑をかけている〉と悲観されている節があり、その為、手すりについては住宅改修についても提案するがやはり取り外しがいつでも出来る、かつ自分の思うところに設置する事ができる。という利便性から本人様はもちろん、家族様も気兼ねなく試す事が出来たご様子でした。また玄関についてもシューズクローゼットが玄関横の奥に広く設置されており、息子様ご夫妻やお孫さんの靴が収納されている事から同居家族様の動線を塞ぐ事は出来ず、また広くスペースが確保されている分、本人様が把持出来る壁面が離れてしまい住改手すりの取り付けを検討するも納得のいく箇所に取り付けが難しい状況でしたので突っ張り型の手すりは環境や本人様の精神的な側面からも落ち着きの良い選択になったかと思えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベストポジションバーの支柱のぐらつき箇所を発見し、下部ベース底面のボルト増締めにて改善しました。福祉用具を利用することで起居、トイレ利用といった基本的 ADL が自立。さらに買物や温泉へ行く（自宅に浴室が無い為）ことが自立維持出来ている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境を 2F → 1F に変更した後の福祉用具の利用状況の確認を行いました。手すりの位置等の調整をいたしました。より安全、快適に過ごせる状況に改善したと考えます。介助者様からもその様に返答をいただきました。</li> </ul>

図表 96 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：手すり（トイレ）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレと手すりが離れてきているとの連絡を受け訪問。手すりに体重をしっかりと乗せて使用している為と手すりの設置箇所が、下すぎた為、離れていました。設置箇所を上方にやり直し、しっかりと固定され、ご利用者様も安心して利用出来ると喜ばれていました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入時と比較し、ADL 大幅に改善され、使用していない用具があったが、また必要な時もあるかもと置いておかれた。必要時は再レンタル可能な旨紹介、介護支援専門員に相談し、現時点では必要ない為、引取となりました。状況に合わせて追加、変更、中止が出来ることが貸与の利点と考えます。</li> </ul>

図表 97 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：歩行器①

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行動作が低下したことで転倒リスクが高まり、それによって歩行器から身体がだんだん離れていく様子も見られるようになった。身体を預けるタイプへの変更や、抵抗器の強さを強めることを提案した。ご本人は1日2回は歩行器で運動したいという思いがあるため、継続して屋外で歩行ができるように支援していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行器の小さな部品がなくなっていることに気付くすぐに交換対応ができた。あのまま使用していると事故につながる恐れがあったので回避ができ、本当に良かったと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>歩行時に、前かがみになり、腕が伸びた状態となっていた。今回のモニタリング時に、ハンドル高さの再調整を行うと共に、適切な歩行姿勢についての指導を実施した。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行器の車輪の減り状況から使用方法の間違いを予想。本人、サ高住管理者への注意喚起が出来た。また、すぐさま交換対応が出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行器の現在の使用頻度を考えると、あと半年間安全に使えるかという不安な面も見られたため、交換させていただきました。その際にあらためて今の機種でよいのか、高さ等は適しているのかを確認させていただきました</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院から半年が経過し、くも膜下による後遺症も回復傾向にあられます。また、歩行器操作にも慣れてこられ、ご本人様の活動意欲も向上してきていますが、<u>慣れと過信による転倒リスクも上がってきているようにお見受けしました。ご本人様及びご家族様によく見られる転倒事例等をお伝えさせていただき、改めて転倒予防に対する意識を強く持っていていただくことができました。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご利用者のニーズを聞き取り、よりよい福祉用具の情報提供を行ったことで使いづらいつことで使用頻度が減少していた歩行器の機種変更を実施し、移動時の負担軽減が図れた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点検時に歩行器右側ブレーキの効きが悪い事が確認できた。現地ではブレーキ調整だけでは、解消されなかったため、利用者様には本体交換したものを使用いただき、社内にて修繕、原因把握を行った。結果、屋外保管をしていたため、砂埃等の汚れにより、ブレーキワイヤーがスムーズに動かなくなっていた事が原因だった。ワイヤーを外し清掃することで解消。訪問時、利用者様はブレーキの効きが悪いことを気付かず使用されており、今回のモニタリングにより、必要時にブレーキが効かないことによって起こりうる事故を未然に防ぐことができた。利用者様には、歩行器カバーをお渡しし、今後も安全にお使いいただきます。</li> </ul>

図表 98 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：歩行器②

<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器を使用するにあたって、玄関先の段差や門扉までの砂利道での注意点をご説明差し上げました。また、メンテナンスを行っていて清拭の際に使用頻度が低下しているように感じましたのでご主人様に使用状況を確認しました。理由として、「暑さ」と「コロナ」で外出頻度が低下しているとの事でした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器への着座時にブレーキを掛けていただく事を改めて指導注意喚起を行う事で転倒事故のリスクを軽減出来ました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>前輪の角度が左右で異なっていた為、ご本人様に押ししてもらい再調整を行なった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>駐車時のブレーキ操作を忘れてしまっていたようでしたので、説明・実演後にご利用者様の動作確認を行いました。レンタル後の期間が短くても忘れていた事があるのだからと確認する事で転倒のリスクが軽減出来ました。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今回、ご利用者様から歩行器をコンパクトな機種に変更してほしいとの希望がありました。以前は買い物によく使用していたが、現在、歩行状態が悪く、疲れやすい為、ご近所を散歩する程度になっている為、変更してほしいとの事でした。カタログにて商品説明を行い、操作方法はほとんど変わらずに同メーカーのコンパクトタイプを選定。レンタルの良さをお伝えしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者様の身体状況の変化に合わせて、歩行器の抑速ブレーキの調整を実施しました。その結果、利用者様・ご家族様が安心して、今現在も歩行器を継続利用され、近くの公園まで1人で外出することが出来ております。公園で他者との交流もあるとのことで、歩行器が社会性を保つための重要なツールとなっております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>長期間使用しているつっぱり型手すりの状況確認（天井や床の状態）、手すりの再設置。歩行器の操作や使用時の下肢の運びを観察する事で、現機種の適合性を確認でき、キャスターの摩耗や回転、ブレーキ調整を行う事で安心してご利用頂ける。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>右ハンドルに握りセンサーがあり、しっかりと握りをしないと車輪制御が機能しない場合があるため、注意するようお願いしました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今回は歩行器の利用頻度が少ない事の相談から訪問し、実際に室内での動きを確認してもらい、歩行器がなくても移動が転倒なくできるのを確認し、担当介護支援専門員へ繋ぎ、他サービスの利用時の状況・状態なども加味して回収となりました。手すりを利用することで自身での出入りができ、庭いじりや畑仕事なども続けられるのも福祉用具を活用して補助ができていた面があると思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者は、「最近、腕が疲れる」と話されていた為、歩行器の使用状況を確認した。以前に比べて、腰が曲がって来ており、歩行器の高さが、少し合わなくなっていた。今回のモニタリングにおいて、ハンドル高さの再調整を実施すると共に、体に負担をかけない歩行姿勢を、アドバイスする事が出来た。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器を導入して初めてのモニタリングだったので使用方法が正しいか、管理はできているか、確認し、指導を実施しました。使い方をまちがえたり、誤認識されている方が多いので新たなサービスを追加した後は、慎重に経過を観察しております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器の前輪の可変角度が、左右異なっておりました。利用時に何かにあたり変わった事が原因であると思い、そうした事への説明や可変角度の調整方法の説明、可変角度の目安について説明し、了解いただきました。</li> </ul>

**図表 99 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：歩行器③**

<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器変更後の使用状況の確認や、歩行器のことで不明な点を説明しました。歩行器を変更することで以前より歩行状態がよくなっていたことを確認できました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器の使い方を伺いより使いやすい機種への変更提案ができた。歩行器は買い物に利用しており、買い物のかごをそのまま載せられるタイプへの変更</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時より ADL 向上し、歩行器の利用機会も増え、車輪の摩耗が見られた為後日交換実施。貸与であるため、利用者はメンテナンスがきちんとされた用具を利用することができ、安全に過ごすことができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ご利用者が全盲の中、同行支援のサービスを利用し買い物へ行く為、荷物の重量や道路状況を他職種・他事業所に確認し歩行器の機種が適しているかを都度確認しています。その為、多職種の状況報告がとても重要になります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折をしてから一人で外出していないが、歩行器のおかげで室内移動が楽になり、室内で運動することやお米を研ぐなどの活動意欲が以前に比べアップしている（ご本人息子様より）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今回ベースの小さい軽量なタイプへ変更。以前は安定感のあるベースの大きいタイプを使用していたが、歩行も安定しており、重量が負担になるとの訴えがあり変更実施。交換後身体へ負担なく使えているとのこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行器後輪キャスターが摩耗していた為キャスター交換をしています。ご本人様より動きが悪くなった気がするとの申し出がありましたが、前輪キャスターの角度が、使用開始時は左右 90 度→左側だけ 360 度になっていた事が原因でした。角度調整し、本人様より動きやすくなったと仰っていただきました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具の利用状況確認により室内歩行器での移動時にバックがしづらいと話があり前輪の角度調整する事で改善した</li> </ul>

**図表 100 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：歩行補助つえ**

<ul style="list-style-type: none"> <li>50 代から脳内出血による左半身麻痺があり、四点杖の使用頻度が高く、また、以前にプラスチック製の高さ調整部分が、破損したことがあり、本人が心配して毎月の商品交換を希望されており、毎月交換しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>体調、ADL の変化の多い方で、過去にも何度か必要になった際に四点杖をレンタルされていた。今回も訪問時の聴き取りにおいて歩行状態悪化の為歩行補助つえレンタルの意向を伺い、レンタル追加の運びとなった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問時、玄関に設置されていた徘徊センサーが壁側に向いており、ご家族様に確認したところ倒れたのをご本人が適当に直した可能性があるとのことのお話でした。お伝えしたときに「言われてみれば最近外出時に音がしていなかったかも」と仰っていたので、何か事故など起きる前に定期点検にて気付くことができ良かったと感じました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>屋外での自主歩行訓練を意欲的に行われる方であり、杖先ゴムの劣化が激しい為、交換頻度も高い。また、下肢麻痺であり、杖にかかる荷重も大きく、杖自体の変形(杖先ゴム劣化)⇒歩行躯幹バランスの崩れ⇒転倒というリスクも高い。定期的に訪問点検する事で、危険リスクも回避出来、ご本人様の安心感へも繋がっている。</li> </ul>

図表 101 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）： その他①

<ul style="list-style-type: none"> <li>9月に入ってから毎週のように転倒されているということで、キーパーソンの娘様と介護支援専門員と連絡を取り、用具の設置環境の見直しや手すりの追加提案ができないか検証もかねての訪問となりました。今までは4点杖で移動されていたのですが、トイレまでの歩行も難しくなったため、ポータブルトイレを設置して、高さも確認しました。立ち上がり動作で苦勞されている様子でしたが、手すりの設置よりも、足を少し引いて立ち上がるというアドバイスで動作が可能となったため、用具は現状のままとなりました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>長期間継続的に利用している福祉用具に対して、利用者様、介助者様への身体的変化介助的变化による福祉用具の変更等のニーズがないかをしっかりと聞き取り、ニーズを見逃さないようにすることで、QOLの向上につなげることができる点。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>モニタリング時に身体状況の聞き取りを行い、取り急ぎの商品の変更は必要ありませんが、将来的に必要な用具について提案をさせていただきました。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>以前に比べて目が見えにくくなっているということで、今回はヘルパーに合わせて訪問となりました。ADLは維持されているということで、家具や用具の配置は変えずに現状のまま経過してもらうことになりました。ポータブルトイレの使用回数が増えているため、念のため確認したところ、かなりネジに緩みがあり、肘かけもはずれかかっている状態でした。独居の場合は、なおさらモニタリングの必要性を感じました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具に関するだけでなく、ご利用者の現在の生活に関する悩みなどを幅広くヒアリングし、介護支援専門員に報告できた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊寝台付属品、車椅子付属品について、<u>現時点での追加や変更の必要性はみられなかったが、今後必要になる可能性の高い内容について案内できた。</u>ご本人様、ご家族様と共有しておくことで、ニーズの早期発見に繋がると考えている。依頼を受けてポータブルトイレの高さを変更、移乗がし易くなった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性を発揮できたと思うポイントとしては、新たな生活動線上での転倒リスク箇所の発見。後日レンタル手すりにて対応。また、福祉用具の利用により自立した生活動作の継続が出来ており自尊心の維持や転倒予防身体負担軽減にお役立ちしている様子。ご自分で出来ることの継続により介助者負担の軽減にも繋がっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>レンタル品の使用状況や身体状況に変化はなかったのですが、玄関先の環境が変わったことで、転倒のリスクがある箇所に気がきました。レンタル品では対応できない場所だったため、住宅改修をすることになったのですが、訪問しなければ分からない案件でした。</u></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>普段は独居ということで、ご本人様、ご家族様の転倒に対する不安があり福祉用具の導入となりました。福祉用具導入後は徐々に外出の回数が増えており、コロナウイルスが落ち着いたら地域のサロンに参加したいと意欲が出てきております。購入では金銭的な不安もあるため、貸与でその時に合った用具を使用できることが精神的な安心にも繋がっているとのことでした。</li> </ul>

図表 102 専門性を発揮できたと思うポイント（主な自由記述）：その他②

<ul style="list-style-type: none"><li>変形性型関節症や腰部脊柱管狭窄症、自律神経失調症を併発されており、常に左下肢の痺れが続いているが、現在はご本人様の高い注意力もあり、安全に福祉用具を活用されることで自立した在宅生活を維持いただけておられます。一方で、これまでも天候や季節によって症状悪化を繰り返されており、突発的な転倒リスクや症状悪化に伴う ADL 低下も懸念されたため、福祉用具を活用したお体に負担の少ない ADL 動作のアドバイス、また、事故の多い事例等の紹介にて注意喚起をすることができました。ご本人様へのアドバイスにてさらに安全意識を高く持っていただけたため、ご本人様の将来的な心身状態の維持や ADL 維持にも繋がるのではと考えております。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>身体状況は安定されているのですが、これから涼しくなるのでシルバーカーで外に出たいというお話をされました。その自前のシルバーカーですが、かなり古いものでブレーキが効いていない状態だったため、合わせて調整しました。独居のため、そこまで目が届かないのだと思い、レンタル品以外でも日常の中で使うものは気を配らなければいけないと実感しました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>退院後の ADL の変化に応じて福祉用具の入れ替えを行った後の使用状況の確認訪問でした。問題なく利用することでできており、QOL の向上にも寄与できていました。介助者様からも助かっている、と返答をいただけております。</li></ul>

## 2-3. 調査結果のまとめ

### (1) 調査対象の概要

- 調査対象となった利用者の利用中の福祉用具貸与品は、多い順に「歩行器」(39.9%)、「手すり(寝室・居室・廊下)」(38.3%)、「特殊寝台(付属品含)」(35.3%)であった(図表 28)。貸与品の種目数は「1種目」が37.1%で最も多く、次いで「2種目」が30.1%であり、最大は「7種目」であった(図表 29)。
- 本調査時のモニタリング訪問の実施区分は、「定期モニタリング」が最も多く、前回実施日からの期間を算出したところいずれの種目も「6ヵ月～9ヵ月未満」が最も多かった(図表 41、図表 42)。「不定期訪問」の場合、「利用者家族からの連絡」「介護支援専門員からの連絡」が多くみられるが、「歩行補助つえ」のみ「利用者本人からの連絡」が最も多かった(図表 43)。また、「不定期訪問」の理由はいずれの種目も「相談/要請等」が最も多く、「故障」「事故」は数件であった(図表 44)。

### (2) 訪問前に実施した内容

- 訪問前に実施した内容は、多い順に「前回のモニタリング記録を確認」が73.0%、「利用者・家族への訪問連絡」69.1%、「利用者の基本情報を確認」59.5%であった。初回モニタリングの場合には、「利用者・家族への訪問連絡」が72.7%で最も多く、次いで「利用者の基本情報を確認」が63.5%、「福祉用具貸与・販売計画書を確認」が59.1%であった(図表 33)。
- 訪問前に実施した内容の1件あたりの所要時間は「10～20分未満」が最も多く55.2%であり、平均は16.0分であった。初回モニタリングの場合も訪問前に実施した内容の1件あたりの所要時間は変わらなかった(図表 34)。

### (3) 訪問時に実施した内容

#### 【モニタリング訪問時の滞在時間・対応者】

- モニタリング訪問時の滞在時間は、全体で見ると「30～40分未満」が最も多く、30.1%であった。利用者へ貸与している種目数別では、「1種目」の場合「10～20分未満」の回答が最も多く、35.6%であった。「2種目」以上の場合には「30～40分未満」が最も多く、「2種目」で31.5%、「3種目」で38.3%、「4種目以上」で29.2%であった。平均時間は、「1種目」で23分、「2種目」で29分、「3種目」で31分、「4種目以上」で35分となっており、貸与種目数が多いほど利用者宅での滞在時間が長くなる傾向であった。一方、最大値は120分であり、モニタリング訪問時の滞在時間には幅がある結果であった(図表 35)。
- 訪問時の対応者について、全体で見ると「利用者本人」が最も多く82.9%であった。認知機能別に確認したところ、「自立」「I」の場合には全体同様「利用者

本人」が最も多いが、「Ⅱa・Ⅱb」、「Ⅲa・Ⅲb・Ⅳ・M」の場合は「介助者（ご家族）」の回答が最も多い結果であった（図表 36）。

#### 【モニタリング訪問時の確認事項・確認方法】

- モニタリング訪問時、福祉用具専門相談員は貸与している福祉用具の使用状況だけでなく、利用者の身体状況・ADLの変化や利用者・家族の意向・要望等も含め、アセスメント時と同様に利用者の状態像に関する事項も確認していた。利用者の要介護度別に確認したところ、「軽度」及び「中等度」の利用者については、「聴取」での確認を実施しつつ、「座位」や「屋内歩行」等については「観察・動作確認」も合わせて実施していた（図表 37）。確認した結果、要介護度に関わらず約6割～7割で変化「無」とした一方、約3割の利用者では、前回の確認結果から変化「有」となっていた（図表 38）。
- また、本調査では貸与種目毎に想定される確認項目を提示し、その実施方法についても回答を得た。貸与種目によらず調査票に提示した確認項目については、聴取による利用状況等の確認を基本としつつ、利用者本人が操作する手すり・スロープ・歩行器・歩行補助つえの場合などは、観察、動作確認などでも合わせて確認を行っており、その結果を踏まえ、必要に応じて指導や再調整等を実施していた。例えば、歩行器では操作状況に関わる項目（「誤使用・誤操作」等）は「観察」での確認も3割程度実施されており、特に「歩行器脚部の状況」は5割を超えていた。また、「歩行姿勢・歩行動作状況」「歩行器の高さ」については「動作確認」も3割程度で実施していた。さらに、適合確認の結果を踏まえ、「ブレーキ操作の習得状況」「歩行姿勢・歩行動作状況」「誤使用・誤操作」「歩行器の高さ」等の項目について主に再指導が行われていた（図表 45～図表 56）。

#### 【モニタリング訪問時に把握した事故、ヒヤリ・ハット】

- モニタリング訪問時に把握できた事故は、種目別に確認したがいずれの種目においても「あり」は数件だった。具体的には歩行器、手すり（寝室・居室・廊下）がそれぞれ4件、車いす（付属品含）、特殊寝台（付属品含）がそれぞれ3件、歩行補助つえ2件、手すり（玄関上がりかまち・玄関外）、手すり（トイレ）、移動用リフト（つり具の部分を含む）がそれぞれ1件だった（図表 64）。
- 同様にヒヤリ・ハットについても把握されており、「歩行器」で「あり」が10.3%と他の種目よりも多い結果であった。対応内容としては「注意喚起」が85.2%と最も多く、次いで「使用方法の再指導」49.2%であった。また、「機器の使用中止」は車いす（電動車いす）1件、特殊寝台（付属品含）1件、手すり3種各1件の5件が確認された（図表 65）。

#### 【適合確認の結果と利用継続等の判断】

- 要介護度別に適合確認の結果及び対応状況を確認したところ、要介護度（3区分）別に適合確認の状況をみると、変化の有無では「重度（要介護4・5）」で「有」が32.6%と多かった。指導の実施有無は、介護度の変化によらず「実施」がいずれも4割を超えていた（図表57）。また、要介護度（4区分）別では、変化の有無は「中等度（要介護3）」「重度（要介護4・5）」で「有」が3割以上であった。指導の実施有無は、「軽度（要介護1・2）」以上の利用者について「実施」が4割を超える結果であった（図表58）。
- 適合確認の結果、本調査の対象者においては貸与中の福祉用具について「継続」という結果が多くを占めたが、その判断理由は状態像の変化や使用状況をもとに福祉用具の利用目標を踏まえ、ADLの維持・向上ができてきていること、生活範囲の維持・拡大ができてきていること、介護負担軽減に寄与しているなど、個々に評価していた（図表76）。

#### 【モニタリング訪問時のメンテナンス対応】

- 福祉用具専門相談員が実施するモニタリングでは、福祉用具のメンテナンス等も実施している。種目別に機器の状態把握の方法を確認したところ、福祉用具専門相談員が自ら実施する「訪問時の点検」とともに、主に介助者（ご家族）が操作する「体位変換器」「床ずれ防止用具」等では「介助者に聴取」が多く、利用者本人が操作・使用する「歩行器」「歩行補助つえ」では「本人に聴取」による確認が多い結果であった（図表78）。
- 種目別に機器の故障・不備への対応について確認したところ、いずれの種目も「故障なし」の回答がもっとも多い結果であった。一方、「車いす（付属品含）」については、「現地修理を実施」が11.9%であり、他の種目より多い結果であった（図表79）。

#### （4）訪問後に実施した内容

- モニタリング訪問後、福祉用具専門相談員が事業所内で実施した内容として、「モニタリング（メンテナンス含む）記録の作成」で「実施した」が94.7%という結果であった。「適合評価に基づくサービス変更の検討」は「実施した」43.6%、「実施していない」54.3%と半数ずつの結果であったが、本調査の対象利用者の適合確認等の実施状況から、状態変化があまりなく、再調整等の必要のないケースが多かったことによる結果であると推察される（図表82）。所要時間については、記録作成を行っているため、「10～20分未満」が56.6%と最も多い結果であった（図表83）。
- また、訪問結果の他職種への報告・情報共有（予定含む）について、介護支援専

専門員については「実施した（する）」が92.6%であったが、他の介護サービスについては「実施しない」が90.2%という結果であった（図表84）。報告・情報共有を「実施した（する）」と回答した場合、その報告手段は、介護支援専門員については「書面」が89.6%と多く、他の介護サービスは「口頭」が75.5%という結果であった（図表85）。

- それぞれ重点報告を行った項目について、上位3つまでの回答を得たところ、介護支援専門員については多い順に「福祉用具の使用状況」（80.3%）、「用具の点検結果」（55.7%）、「身体状況の変化」（43.2%）であった。他の介護サービスについては、介護支援専門員への報告と同様に「福祉用具の使用状況」（66.0%）が最も多かったが、次いで「身体状況の変化」（51.9%）という結果であった（図表86）。

#### （5）福祉用具専門相談員として専門性を発揮できたと思うポイント

- 本調査では、各調査票（事例）に対し、福祉用具専門相談員として専門性を発揮できたと思うポイントを自由記述にて回答を得た。
- 車いす（付属品含）を貸与している利用者に対しては、初回モニタリング時に利用状況をより詳しく確認したことで車いすのブレーキかけ忘れ等のヒヤリ・ハットを確認出来、本人、家族への注意、介護支援専門員との連携を行い、事故の防止に役立てたという記載や、サービス導入時と比べ電動車いすの運転能力が低下しており、モニタリング時にヒヤリ・ハットが見られた為サービスを中止し、アシスト付歩行器を使用しご家族の見守りで外出する案を提案したという記載があり、ヒヤリ・ハットを把握し、事故防止に向けた対応及び、福祉用具自体の再選定、提案を行っていた。
- 手すり（玄関上がりかまち・玄関外）を貸与している利用者に対しては、モニタリング訪問時に本人の動作を確認しながら、手すりの位置や高さを調整する事で一人で移動できるようになり、利用目標の達成状況を確認しながら評価する事で、具体的に本人や介護支援専門員への報告が出来ているという記載や、手すり（寝室・居室・廊下）を貸与している利用者に対しては、当初は家具横の置き型手すりが必要であったが、本人の動線の変化により必要が無くなり、屋内歩行車の利用に変わっていくアドバイスが出来たなど、利用者の身体状況や生活の変化を踏まえた位置の変更や、次に必要となる福祉用具の提案を行っていた。また、歩行器を貸与している利用者に対しては、退院後、歩行器操作への慣れと過信による転倒リスクが上がってきていることを察知し、本人・家族よくある転倒事例等を伝え、改めて転倒予防に対する意識を強く持っていただくという対応や、貸与開始からの時間が短くても駐車時のブレーキ操作を忘れてしまっていたということで、説明・実演後にご利用様の動作確認を行うことで転倒のリスクを軽減した

という対応が実施されており、福祉用具専門相談員としての知見を活用し、転倒リスクや本人・家族の状況から事故防止に向けて再度操作方法を説明することに加え、実際に動作確認まで行い、安全に利用していけるかを見極めていた。

- さらに、現在貸与している福祉用具に関する状況だけでなく、利用者の身体状況等について広く確認することで、将来的に必要な用具について提案をしたという記載や、玄関先の環境が変わったことで、転倒のリスクがある箇所に気づき、福祉用具貸与では対応できないということで住宅改修を提案したという、訪問を実施しなければ気づかなかったとの記載があった。これらから、福祉用具専門相談員が住環境整備に関する専門職として、その専門性を発揮できた事例といえる。

#### (6) 特定福祉用具販売の商品への対応

- 本調査では、モニタリングが義務化されていない特定福祉用具販売商品への対応として、使用状況の確認やメンテナンスの実施状況についても回答を得た。
- 調査対象利用者の特定福祉用具販売の利用状況は、多い順に「入浴補助用具」29.3%、「腰掛便座」13.1%という結果だった。「入浴補助用具」は「不明」も11.5%であった（図表 87）。
- 特定福祉用具販売の商品について、「利用中」と回答したものについて、使用状況の確認を「自主的に実施した」が、「腰掛便座」で56.2%、「入浴補助用具」で49.0%であった。一方、使用状況の確認、メンテナンスの実施について、いずれの商品についても「本人・介助者から依頼があり実施した」という回答は少数だった（図表 88）。